

令和6年度 教職経験6年目研修の手引 (教諭)



問い合わせ先

島根県教育センター 企画・研修スタッフ

〒690-0873 松江市内中原町255-1

TEL (0852)22-5853 FAX (0852)22-5581

島根県教育センター浜田教育センター 研究・研修スタッフ

〒697-0023 浜田市長沢町1550-1

TEL (0855)23-6782 FAX (0855)23-5059

島根県教育委員会

島根県の教職員として求められる資質能力

教職員として求められる資質能力は、普遍的でいつの時代にも求められるものと、時代の変化に対応してその時代時代に求められるものがある。社会の変化や時代のニーズに応える学校教育の実現には、教職員の職務に応じた資質能力の向上が不可欠である。職務に関わる専門的知識・技能の他、様々な課題に対応するための実践的指導力の向上を図るためには、常に探究心を持ち自主的に学び続ける力が求められている。また、学校組織の一員としてのコミュニケーション能力、他者と連携・協働する力も大切である。そこで、島根県の教職員として求められる資質能力を次のように定める。

島根県の教職員として求められる資質能力

- 豊かな人間性と職務に対する使命感
- 子どもの発達への支援に対する理解と対応
- 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度
- 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力
- よりよい社会をつくるための意欲・能力

キャリアステージに応じて求める姿と育成する資質能力

【採用までに身に付けておいて欲しいこと】

新規採用された段階。教職課程認定を受けた大学等、養成段階での学修等を通して、教育職員として勤めるための素養や基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていることが必要である。

【自立・向上期(1～5年目)】

新規採用時からおよそ5年目までの5年間の期間にあたり、教育職員として授業や学級経営等の実践的指導力を身に付けて自立し、向上心を持って成長していく基盤を固める期とする。

【探究・発展期(6～15年目)】

およそ6年目から15年目までの10年間の期間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。

【充実・円熟期[前期](16年目～概ね25年目)】

経験16年目以降から概ね25年目の期間にあたる。教育職員として様々な教育実践を重ねることで教科等の専門的知識及び技能を高めるとともに、主任やミドルリーダーとしての自覚や責任を持って教育活動を円滑に進める資質能力を高めていく期とする。

【充実・円熟期[後期](概ね26年目以降)】

概ね経験26年目以降の期間であり、経験豊富で知見があるベテラン層の年代にあたる。教育職員として教科等の専門的知識及び技能をさらに高めていきながら、学校運営にも積極的に参画し、後進にも適切な助言を与えるなど人材育成を図っていく期とする。

島根県公立学校教育職員の育成指標

「島根県公立学校教育職員人材育成基本方針」

教諭等の育成指標

～学び続ける教育職員を目指して～

令和5年3月 島根県教育委員会

資質能力	キャリアステージ	採用までに身に付けておいて欲しいこと*2	自立・向上期 (1~5年目)	探究・発展期 (6~15年目)	充実・円熟期 (16~概ね25年目) 【前期】*3 【後期】 (26年目以降)	
			1 豊かな人間性と職務に対する使命感	①人間理解・人権意識	・生命尊重・人権尊重の精神と、多様な価値観を尊重する態度を有している。	
	②職務に対する誇りと責任	・教育職員として必要な倫理観、職務に対する使命感・責任感を持ち、自分の将来のキャリアや求められる役割を意識しながら、変化に応じて常に学び続けようとしている。 ・危機管理の知識や視点を持ち、教育活動における事故・災害等に普段から備えている。 ・関係法の理念を十分理解し、教育職員等による児童生徒性暴力等を断固として許さず、子どもの尊厳を保持しようとしている。				
	③ふるさとを愛する心	・地域の自然・歴史・文化・伝統を理解し尊重する態度、ふるさとを愛する人材育成への意欲を有している。				
2 子どもの発達の支援に対する理解と対応*1	④生徒指導の推進	・発達段階を踏まえた子ども理解・子ども支援、キャリア発達など生徒指導に必要な基礎理論・知識を習得している。	・子どもとのふれあいや観察を通して、様々な行動の内に潜む微妙な心の動き、キャリア発達を共感的に受け止め、良さや可能性を伸ばしながら、学級等の集団づくりを進めることができる。	・子どもの心身の発達やキャリア発達に対する理解を深め、個に応じた指導や学年等の集団指導を実践することができる。	・キャリア発達の視点をふまえ、教職員と協働したり地域社会や外部機関と連携したりしながら、さまざまな場面をとらえて子どもが自分らしい生き方を実現するための力を育成することができる。	・子どもに関わる様々な問題やキャリア発達への対応力を身に付け、学校の教育活動全体を通じた連携体制をつくりながら、子どもの自己実現の達成をめざして支援していくことができる。
	⑤特別支援教育の推進	・特別な配慮や支援を必要とする子どもへの指導に関する基礎理論・知識を習得している。	・特別な配慮や支援の必要な子どもの実態把握を行い、一人一人のニーズに応じた指導や支援についての計画を立て、実践することができる。	・特別な配慮や支援の必要な子ども一人一人の支援計画・指導計画に基づき、学習上・生活上の支援の工夫、指導の実践を行うことができる。	・特別な配慮や支援の必要な子どもに組織的に対応するための知識や方法を身に付け、家庭や地域等と連携することができる。	・校内での支援体制の構築や関係機関及び異職種等との連携など、特別支援教育を組織的に推進することができる。
<全キャリアステージに共通した指標> ・インクルーシブ教育システムの理念、授業のユニバーサルデザイン化、合理的配慮の提供に関する考え方を踏まえて、教育活動を実践することができる。						
3 職務にかかわる専門的知識・技能及び態度	⑥教科等の指導に関する専門性	・教育課程の編成、教科等の指導方法に関する基礎理論・知識を習得している。	・教科等を学ぶ意義を踏まえて指導計画を作成し、教科等の指導を実践することができる。 ・子どもの心身の発達や学習過程に関する理解に基づいて、興味・関心を引き出す教材研究をしたり、学習者中心の授業となるよう工夫したりすることができる。	・教科等の専門的知識及び技能の習得に努めるとともに、カリキュラム・マネジメントの意義を理解し、その視点をふまえて教科等を相互に関連させながら協働して授業研究を行うなど意欲的に教育実践に取り組むことができる。 ・子どもの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むなど、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業を行うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度を高め続けることができる。 ・教科等の相互関連や学校段階間の円滑な接続を意識した教育実践を行うことができる。 ・校内研修の中心的な役割を担うことができる。	・教科等の専門的知識・技能及び態度をさらに高め、後進に適切な助言を与えながら、人材育成に取り組むことができる。
	⑦ICTや情報の利活用*4	・ICTを活用した授業デザインを実現するための、ICT活用に関する基礎的な知識（情報モラルを含む）や基本的な技能を有している。	・今まで学んできたICT活用や教育データ活用に関する基礎的な知識・技能を教科等の指導や校務に積極的に取り入れながら活用することができる。	・教育データを整理・分析し適切に業務に取り入れながら、ICTをより効果的な形で活用することができる。	・時代に即応した知見を取り入れつつ、さらに専門性の向上をはかりながら、同僚と連携・協働し、校内に広めていくことができる。	・校務の情報化の推進に積極的に参画するとともに、後進に適切な助言を与えながら育成することができる。
	⑧社会の変化への対応	・新たな学びや教育課題に対して、積極的に挑み試行錯誤しながら粘り強く取り組む意欲や探究心を有している。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を具体的に考え取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、適切な対応の仕方を提案し、協働して取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、長期的な見通しをもって組織的に取り組むことができる。	・新たな学びや教育課題に対して、より幅広い視点に立って自分自身をさらに向上させていくことができる。
4 学校組織の一員として考え行動する意欲・能力	⑨学校組織マネジメント	・学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得している。	・学校教育目標に沿った自己目標を立て、その達成に向けて取り組むことができる。	・組織の一員としての役割を理解し、学校の課題に対応することができる。	・スクールリーダーとしての自覚や責任を持つとともに、企画力や調整力を発揮して教育活動を円滑に進めることができる。	・学校教育目標の達成を目指し、学校の運営・指導体制構築に積極的に参画することができる。
	⑩他者との連携・協働	・集団で活動する際、自己を成長させようとする意欲や態度を有している。	・他の教職員の意見を活かしながら、自らの役割に応じて行動することができる。	・経験豊かな教職員から多くのことを学ぶとともに、同僚と連携・協働しつつ、後進に助言を与えるなどして育成にも目を向けることができる。	・他の教職員の役割分担や業務の進捗状況を把握・調整しながら、相互に支えあう体制づくりができる。	・職場の同僚性が発揮できるような雰囲気づくりをするとともに、後進を育成する観点を持ちながら組織を動かしていくことができる。
5 よりよい社会をつくるための意欲・能力	⑪地域資源の活用と地域貢献	・学校教育活動を通して、地域社会に貢献することについて、自分なりの考えや意欲を有している。	・子どもと地域社会をつなごうとする意欲を持ち、地域と連携した学校教育活動を計画に基づいて実践することができる。	・学校外の様々な地域資源や機会を活用し、地域と連携した学校教育活動を効果的に実践することができる。	・地域にある他の学校および幼児教育・保育施設や行政との連携・協働について、円滑な接続を意識しながら企画力や調整力を発揮して、主体的・組織的に実践することができる。	
	⑫合意形成に向けた議論の調整・促進	・子ども同士の話し合いの場面において、適切に働きかける力を有している。	・子ども同士が協働し、探究していく活動を円滑に実践することができる。	・現実の社会や地域との関わりを意識しながら、子ども同士が議論をしたり、合意形成を図ったりするよう促すことができる。	・地域課題解決型学習などを企画することができ、魅力ある地域づくりに向けた議論を効果的に調整・促進することができる。	

*1 この指標において「子ども」とは幼児・児童・生徒のことである。

*2 「採用までに身に付けておいて欲しいこと」は、採用時における資質能力の目安として示した。

*3 「充実・円熟期」の「前期」と「後期」の境目は概ね25年目を目安とするが、個々の教員の実態に応じて柔軟に運用してよいものとする。

*4 指標⑦「ICTや情報の利活用」について、求められる資質能力と実態差がある場合には、技能に応じたキャリアステージを起点としつつ、可能な限り早期に自分のキャリアステージの資質能力を身に付けていくこととする。

はじめに

初心忘るべからず

『花鏡』 世阿弥

「先生」と呼ばれるようになって、ずいぶん経ちました。教師の仕事にも慣れ、「実践的指導力」がずいぶん身に付いたと思います。



しかし、「実践的指導力」を身に付けたら、それで終わり…というわけではありません。この研修を通して、これまでの実践を振り返るとともに、その実践的指導力を基に、次のステージ【探究・発展期】に向けて、教諭としての資質能力を高めていきましょう。

初心に戻って、一年間の研修に臨みましょう！

誰もが、誰かの、
たこからもの。

いいけん、
島根県

目 次

はじめに

島根県の教職員として求められる資質能力、島根県公立学校教育職員の育成指標

目次

教職経験6年目研修(教諭)の概要

教職経験6年目研修(教諭)実施要項	1
目的、研修の対象者、研修期間と認定	3
所属教育センター、校内の指導体制、研修内容	4
提出物、提出方法及び締切日、その他	8
教職経験6年目研修(教諭)様式	9
教職経験6年目研修(教諭)についての事前調査	11
様式1 課題研究構想メモ	12
様式2 授業づくりのプロセス構想シート	14
様式3 課題研究レポート	24
様式4 報告書	26
参考様式1 課題研究レポート(中間発表用)	28
参考様式2 研究授業振り返りシート	29
参考様式3 研修発表に関するアンケート	30
教職経験6年目研修(教諭)年間計画	31
6年目研修の目的	33
校内指導体制	34
研修内容	35
4月	36
4月～5月	37
5月～1月	38
5月～6月	39
6月～7月	40
6月～8月	41
8月～11月	43
8月～1月、12月～2月	44
2月	45
教職経験6年目研修(教諭)授業づくり	47
授業づくり	50

授業づくりのねらいと考え方	51
授業づくりのプロセス(単元・題材づくり)	52
授業づくりのプロセス構想シート(記入例)	60
学習評価	70
課題研究の進め方	71
課題研究構想メモ(記入例)	72
課題研究構想メモ(チェック表)	73
課題研究構想発表の進め方の例	74
授業づくり②(第Ⅲ回教育センター研修)	75
課題研究 校内中間発表の進め方の例	76
課題研究 校内成果発表の進め方の例	77
授業づくり③課題研究成果発表(第Ⅳ回教育センター研修)	78
授業改善プランニングシート(第Ⅳ回教育センター研修)	79
研修に役立つ資料	80
教職経験6年目研修 年間予定表	82

教職経験6年目研修（教諭）の概要

島根県公立学校教育職員 人材育成基本方針における育成指標「探究・発展期」

およそ6年目から15年目までの10年間にあたり、教育職員として意欲的に教育活動を実践し、得意分野を開発・探究していくなどにより専門的な知識及び技能の充実を図る期とする。



教職経験年数に応じた研修の一環として1年間の研修を実施

【目的】

- ・得意分野を開発・探究していく
- ・児童生徒等の理解を深め、適切に対応できる方法を身に付ける
- ・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の充実を図る

計画等（4、5月）

各校において、島根県教職員評価システム等によって「自己目標」や「目標達成のための手立て」を計画する。※提出不要

研修内容（4月～2月）

OJT研修

- ・授業づくり [通年]
- 〔課題研究発表 (3回)
- 〔授業研究 (2回)
- ・校内授業研究会参加

Off-JT研修

- ・教育センター研修 [3.5日]
- 〔集合研修 (1日)
- 〔オンライン研修 (2日)
- 〔オンデマンド研修 (0.5日)

報告（2月）

報告書等の作成・提出

次年度の取組

教職経験 6 年目研修 (教諭)

実施要項

目 次 (実施要項)

教職経験6年目研修(教諭)実施要項

目的、研修の対象者、研修期間と認定	3
所属教育センター、校内の指導体制、研修内容	4
教育センター研修期日、会場及び研修項目等	6
教育センター研修項目別の目的と内容	7
提出物、提出方法及び締切日、その他	8

この手引では、下表の左欄の表記を右欄の通り表記する。

島根県教育委員会	県教育委員会
島根県教育センター浜田教育センター	浜田教育センター
島根県教育センター研修情報システム	研修情報システム
校内で管理職を除いた3名以上(対象者を含む)のメンバーからなるチーム	チーム
分校、分教室、乃木校舎	分教室

教職経験6年目研修(教諭)実施要項

1 目的

教職経験年数に応じた研修の一環として、1年間の実践的な研修を通して、教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する資質能力の充実を図る。

2 研修の対象者

- (1) 公立の小学校、中学校、義務教育学校、高等学校及び特別支援学校の教諭のうち、令和5年度末に教職経験年数(以下「経験年数」という。)が5年以上の者で、教職経験6年目研修をまだ受講していない者を該当者とし、そのうち令和6年度に研修を受講する者。
- (2) 経験年数の計算にあたっては島根県教職員人事異動ルールに従う。なお、県外での経験年数も含める。
- (3) 当該年度において、以下に所属又は派遣されている者は、研修を延期する。学校勤務になった年に受講することとする。

ア 行政機関

学校教育(学校訪問等を通じて学力向上、授業力向上等に係る指導助言等)に係る事務に主として従事しており、県教育委員会が当該者の経験の程度を勘案して、実施する必要がないと認める者は免除することができる。

イ 在外教育施設

ウ 教員長期社会体験研修

- (4) 以下の者は、研修を免除する。
 - ア 他の任命権者が実施する教職経験6年目研修に相当する研修を修了した者
 - イ 兵庫教育大学・島根大学等大学院派遣研修を修了した者(学校勤務になった年に受講することもできる。)
 - ウ 特別な事情により、県教育委員会が定める者

3 研修期間と認定

- (1) 県教育委員会が定める年度の1年間とする。
- (2) 全ての研修を修了した者を研修修了と認定する。なお、研修期間については、特別な事情があった場合、8ヵ月以上の研修期間を有することとする。

※ 年度途中で対象者の研修が継続不能になるおそれがある場合、校長は所属教育センターに連絡すること。

4 所属教育センター

島根県教育センター	浜田教育センター
松江・出雲・隠岐教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭 ○義務教育学校教諭 松江・出雲・隠岐地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭	浜田・益田教育事務所管内の学校の以下の教諭 ○小学校教諭 ○中学校教諭 大田・浜田・益田地区の学校の以下の教諭 ○高等学校教諭 ○特別支援学校教諭 ※分教室の教諭は、本校の所属教育センターに所属するものとする

5 校内の指導体制

校長は、学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行うこと。又、対象者が本研修を実施するにあたり、授業等に支障が生じないように配慮すること。

校長は、校内で管理職を除いた3名以上（受講者を含む）からなるチームを編成すること。

チームのメンバーは、校内で6年目研修対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図ること。

6 研修内容

(1) OJT研修（日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修）

ア 授業づくり（通年）

[ねらい]

「身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業」に関する主題を設定し、1年間を通じて研究を深め、授業力の向上を図る。

[内容及び方法]

(ア) 課題研究の発表（3回）

- ・自らが選択した教科等の特性を考慮して、ねらいに沿った主題を決定すること。
- ・課題研究の構想（第Ⅰ回教育センター研修後）、中間段階（8月～10月）、最終段階（1月～2月）に校内の教職員の前で発表すること。

(イ) 授業研究（2回）

- ・課題研究に関連した授業及び協議を2回行うこと。
- ※1回目は校内構想発表後から第Ⅲ回教育センター研修までに実施し、2回目は第Ⅲ回教育センター研修後から1月中旬までに実施すること。
- ・「研究授業前の学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」をもって1回とする。
- ・管理職等を含む複数の教員で、ねらいに基づいた視点で協議を行うこと。

イ 校内授業研究会参加(1回以上)

[ねらい]

経験豊かな教諭等の研究授業の参観及び研究協議に参加し、自らの授業力の向上及び課題研究の深化・発展に資する。

[内容及び方法]

校内にて教諭等の研究授業の参観及び研究協議に参加する。

[その他]

- ・校内での授業研究会に参加できない場合は、市町村の教育研究会や島根県教育研究会が主催する研究大会等への参加に代えることができる。
- ・旅費が発生する場合は、以下にしたがって対応すること。
市町村立学校「一般旅費」 県立学校「学校管理運営費(配分ルール分)」

(2) Off-JT研修(日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修)

ア 教育センター研修(3.5日)

[ねらい]

- ・教諭としての得意分野の開発・探究を図るとともに、児童生徒等の理解を深め、同僚と協力して学校課題に対応する能力を身に付ける。
- ・校外等の教諭等との交流を通し、互いに学び、実践的意欲や態度を養う。

[研修方法及び研修場所]

- ・集合研修 (1日) 教育センターが指定した会場
- ・オンライン研修 (2日) 所属校又は校長が指定した場所
- ・オンデマンド研修(0.5日) 所属校又は校長が指定した場所

[教育センター研修期日、会場及び研修項目等]

回	期日	会場	対象者	研修項目等
第Ⅰ回	オンライン 5月28日(火) 又は 5月29日(水)	所属校又は 校長が指定した場所	5/28 課題研究教科 算数、理科、外国語活 動、外国語、図工・美 術、保健体育、技術、 家庭、道徳、情報、農 業、工業、商業、水産、 福祉、自立活動、理療 5/29 課題研究教科 国語、社会、地歴、公 民、数学、生活、音楽、 総合的な学習(探究) の時間、特別活動、各 教科等を合わせた指 導、その他	○開講式 ○オリエンテーション ○授業づくり① ・学習指導要領のめざすもの ・各教科等の見方・考え方と育 成する資質・能力 ・学習評価 ・1回目研究授業構想 
第Ⅱ回	オンデマンド 6~8月	所属校又は 校長が指定した場所	全員	○教育の情報化とICT活用実 践紹介(必ず視聴すること) ○教職員の倫理と服務 ○カリキュラム・マネジメント ○キャリア教育 ※①以外は、年度内の校内研 修で実施される場合、必ずし も視聴する必要はない。
第Ⅲ回	集合(中堅研と合同で実施) 8月2日(金) 8月5日(月) 8月6日(火)	浜田教育センター 島根県教育センター	「授業づくり」グルー プによって期日・会 場が異なる。 ※決定事項は、第Ⅰ 回教育センター研 修で連絡する。	○生徒指導・教育相談 ○特別支援教育 ○授業づくり② ・研究協議 ・課題研究、研究授業構想 
第Ⅳ回	オンライン 2月6日(木) 2月7日(金)	所属校又は校長が指 定した場所	第Ⅲ回教育センター 研修と同じグループ による期日 ※臨時にグループ変 更をした場合はこ の限りではない。	○人権教育 ○授業づくり③ ・課題研究成果発表 ・授業づくりの振り返り ・情報交換 ○キャリアステージ「探究・発展 期」の展望 ○閉講式

※ 各回の教育センター研修実施要項は、実施日の3週間前に研修情報システム MyPage に公開する。

※ 対象者が、教育センター研修を欠席、遅刻、早退、会場・期日の変更をする場合、管理職は所属教育センターに連絡すること。

※ 教育センター研修を欠席した場合、対象者は所属教育センターの課す補充的研修を校内において実施し、そのレポートを所属教育センターの長に提出すること。なお、レポートは管理職の指導と決裁を受けたものとする。

[教育センター研修項目別の目的と内容]

回	研修項目	目的と内容	
第Ⅰ回 (オンライン)	教職経験 6 年目 研修 について	教職経験 6 年目研修の意義や目的、内容等を理解し、研修の見直しをもつ。 (ア) 研修の意義や目的等 (イ) 課題研究の進め方	
	授業づくり①	学習指導要領の めざすもの	学習指導要領の趣旨を理解する。 (ア) 学習指導要領の趣旨の理解 (イ) 個別最適な学びと協働的な学びについての理解(教育の情報化を含む)
		各教科等の見 方・考え方と育 成する資質・能 力	各教科等の「見方・考え方」と「育成する資質・能力」を理解する。 (ア) 各教科等の「見方・考え方」についての理解 (イ) 各教科等で「育成する資質・能力」についての理解
		学 習 評 価	教師の授業改善、児童生徒の学習改善のための学習評価について理解を深め、 今後の実践に生かす。 (ア) 学習評価の意義 (イ) 学習評価計画の理解
		1回目 研究授業構想	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業の構想力を高める。 (ア) 教科等の見方・考え方を働かせる授業づくり (イ) 「主体的・対話的で深い学び」となる授業づくり
第Ⅱ回 (オンデマンド)	教育の情報化	学習の基盤となる資質・能力の一つである「情報活用能力」の育成や「教育情報セキュリティ」について理解するとともに、教職員に求められるICT活用指導力等の向上を目指す。 (ア) 情報活用能力の育成(情報モラルを含む) (イ) 教育情報セキュリティ	
	ICT活用実践紹介	主体的・対話的で深い学びの実現に向けたICT活用(児童生徒1人1台端末)について実践事例を通して理解し、ICT活用指導力の向上を目指す。 (ア) 取組の実際と課題 (イ) ICTを活用した授業改善の理解	
	教職員の倫理と服務	教職員として、高い倫理観と教職に対する情熱・意欲や使命感、責任感をもつ。 (ア) 教育法規等についての理解 (イ) 事例から学ぶ	
	カリキュラム・ マ ネ ジ メ ン ト	教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて理解し、組織の一員としての実践意欲を高める。 (ア) カリキュラム・マネジメントの意義 (イ) カリキュラム・マネジメントの進め方・組織の一員としての役割	
	キ ャ リ ア 教 育	キャリア・パスポートの目的・意義及び基本的な活用方法について理解を深め、 実践力の向上を図る。 (ア) キャリア・パスポートの目的・意義 (イ) キャリア・パスポートの基本的な活用方法	
第Ⅲ回 (集合)	生徒指導・教育相談	生徒指導上の喫緊の課題について考え、対応する力を身に付ける。 (ア) 生徒指導上の課題の理解と対応	
	特別支援教育	共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について学び、児童生徒等一人一人のニーズに応じた適切な指導と必要な支援について理解を深め、実践力の向上を図る。 (ア) インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進 (イ) 児童生徒等の実態把握とその支援	
	授業づくり②	授 業 研 究	授業の視聴や授業についての協議を通して、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業を行うための実践意欲を高める。 (ア) 教科等の見方・考え方を働かせる授業の在り方 (イ) 資質・能力を伸ばす授業の在り方
課 題 研 究、 研 究 授 業 構 想		授業づくり及び課題研究における成果や課題を見いだすとともに、「身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業」の構想力を高める。 (ア) 課題研究の振り返りと見直し・推進・発展 (イ) 単元(題材)の目標に迫る授業づくり	

第IV回 (オンライン)	人権教育	幼児児童生徒の背景にある実態に気付く力を身に付け、学校組織の一員として学びの保障を推進する意欲を高める。 (ア) 島根が目指す人権教育の理念に基づく取組の実践 (イ) 同和問題をはじめとする様々な人権課題の理解
	授業づくり③	課題研究成果発表等を通して1年間の研修を振り返り、研修の成果と課題を明らかにし、次年度の授業実践について展望をもつ。 (ア) 課題研究成果発表 (イ) 授業づくりの振り返り (ウ) 情報交換
	キャリアステージ「探究・発展期」の展望	教職経験6～10年目における教員としての資質能力の向上への展望をもつ。 (ア) 1年間の振り返り (イ) めざす教師像 (ウ) キャリアステージ「探究・発展期」での具体的な取組 (エ) グループ別協議

7 提出物、提出方法及び締切日

	様式	提出物	提出方法		締切日
			研修情報システム		
			My Page	学校 Page	
①	—	教職経験6年目研修についての事前調査	○		4月11日(木)
②	様式1	課題研究構想メモ	○		7月18日(木)
③	—	学習指導案(密案)	○		
④	—	第II回教育センター研修 オンデマンド研修校内発表資料 ※発表資料はサイトに掲載し、県内の学校で活用できるようにするため、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。	○		校内発表実施後 1週間以内 最終締切 9月19日(木)
⑤	様式3	課題研究レポート(成果発表用)	○		令和7年 1月23日(木)
⑥	様式3	課題研究レポート(最終報告用) ※研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮する。		○	2月27日(木)
⑦	様式4	報告書		○	
⑧	—	学習指導案(密案)		○	

※一覧表を参照し、校長の指導、決裁を受け、締切日までにPDFファイルで提出すること。

※対象者は、①～⑤を研修情報システム MyPage の[マイキャビネット]から提出すること。

※校長は、⑥～⑧を研修情報システム学校 Page の[報告書提出]からそれぞれ別々に提出すること。

※著作権、個人情報及び肖像権等に十分配慮すること。

8 その他

研修の成果は、職員へ還元し、より多くの職員の資質能力の向上と学校の活性化につながるように努める。さらに、校内研修はもとより、県内の各種研修会等で積極的に発表することが望ましい。

**教職経験 6 年目研修
(教諭)**

様 式

目 次（様式）

教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査	11
様式1 課題研究構想メモ	12
課題研究構想メモ（自立活動）	13
様式2 授業づくりのプロセス構想シート	14
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】	16
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】	18
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】	20
様式3 課題研究レポート	24
様式4 報告書	26
参考様式1 課題研究レポート（中間発表用）	28
参考様式2 研究授業振り返りシート	29
参考様式3 研修発表に関するアンケート	30

《令和6年度 教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査》

この調査は、6年目研修における研修グループ・研修会場を決定するために行うものです。



このページの項目について、「[研修情報システムMyPage](#)>各種ダウンロード>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>教職経験6年目研修>教職経験6年目研修についての事前調査」のリンク先サイトから回答してください。

https://kensyu.pref.shimane.lg.jp/webrsv/index_personal_training_history.php

回答〆切 令和6年4月11日（木）17:00

項目	留意事項
所属教育センター	P4を参照
校種等	リストから選択する。
学校名	分校等まで記入する 例) 吉賀高等学校 安来市立十神小学校 松江市立義務教育学校玉湯学園 美郷町立邑智中学校 出雲市立河南中学校若松分校 出雲養護学校大田分教室
氏名	姓と名の間は1文字空ける。
担当学年	複数学年を担当している場合は、担当している全ての学年を選択
「授業づくり」で選択する教科等	教科を選ぶことを基本とする。ただし、次の点に留意すること。 ・小学校数理枠採用者は、「算数」又は「理科（生活科）」を課題研究教科とする。 ・特別支援学級担任及び通級指導教室担当者は、「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択することができる。 ・特別支援学校の対象者は、教科等（「各教科等を合わせた指導」「自立活動」以外）を選択することができる。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。 ・特別支援教育担当枠採用者で特別支援学級の担任をしている者は「各教科等を合わせた指導」又は「自立活動」を選択する。
校内研究授業1回目の単元（題材）名	第I回教育センター研修にて、この単元（題材）の教材研究を行う。 未定の場合は「未定」と回答し、第I回教育センター研修までに決めておく。
特記事項	研修を受ける上で、教育センターに伝えておきたいこと。

様式1 (教諭) 課題研究構想メモ

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()
教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

研究主題

研究の動機

【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態 (強み、弱み)】

研究の目的

研究仮説

研究(実践)方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

様式1 (教諭) 課題研究構想メモ(自立活動)

学校名 () 個人番号・氏名 ()

児童生徒等の実態を的確に把握して指導目標を設定し、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

自立活動の目標

研究主題

研究の動機

【学校教育目標や学校で目指す子ども像、校内研究等】

【学校や児童生徒等の実態(強み、弱み)】

研究の目的

研究仮説

研究(実践)方法

検証方法

★課題研究「校内構想発表」における協議内容、チームメンバー及び管理職からの指導・助言

教科等		学年		指導者	
-----	--	----	--	-----	--

①学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題

②単元(題材)名(単元を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称)

③単元(題材)で育成する資質・能力	④単元(題材)の評価規準
【知識及び技能】(職業に関する教科【知識及び技術】)	【知識・技能】(職業に関する教科【知識・技術】)
【思考力、判断力、表現力等】	【思考・判断・表現】
【学びに向かう力、人間性等】	【主体的に学習に取り組む態度】

⑤見方・考え方を働かせている児童生徒の姿
 (課題解決のために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか)

⑥単元(題材)で育成する資質・能力のつながり(小学校 → 中学校 → 高等学校)

⑦児童生徒の実態(単元(題材)にかかわる興味・関心、問題意識、学習前後の資質・能力の差(違い)、重点指導内容など)

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

⑨教師の評価言(問いへの価値づけ、見方・考え方への価値づけ、学び方への価値づけ、全体共有など)

⑩指導と評価の計画


時間	目標(ねらい)・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

様式2 (教諭)

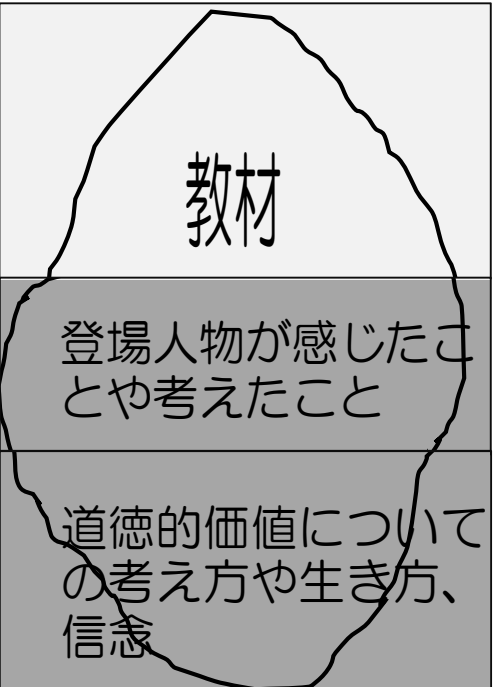
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】

教材名 (出典)

主題名

本時の内容項目の見出し	
内容項目の分析・理解 (一緒に考えたいポイント)	
内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え 

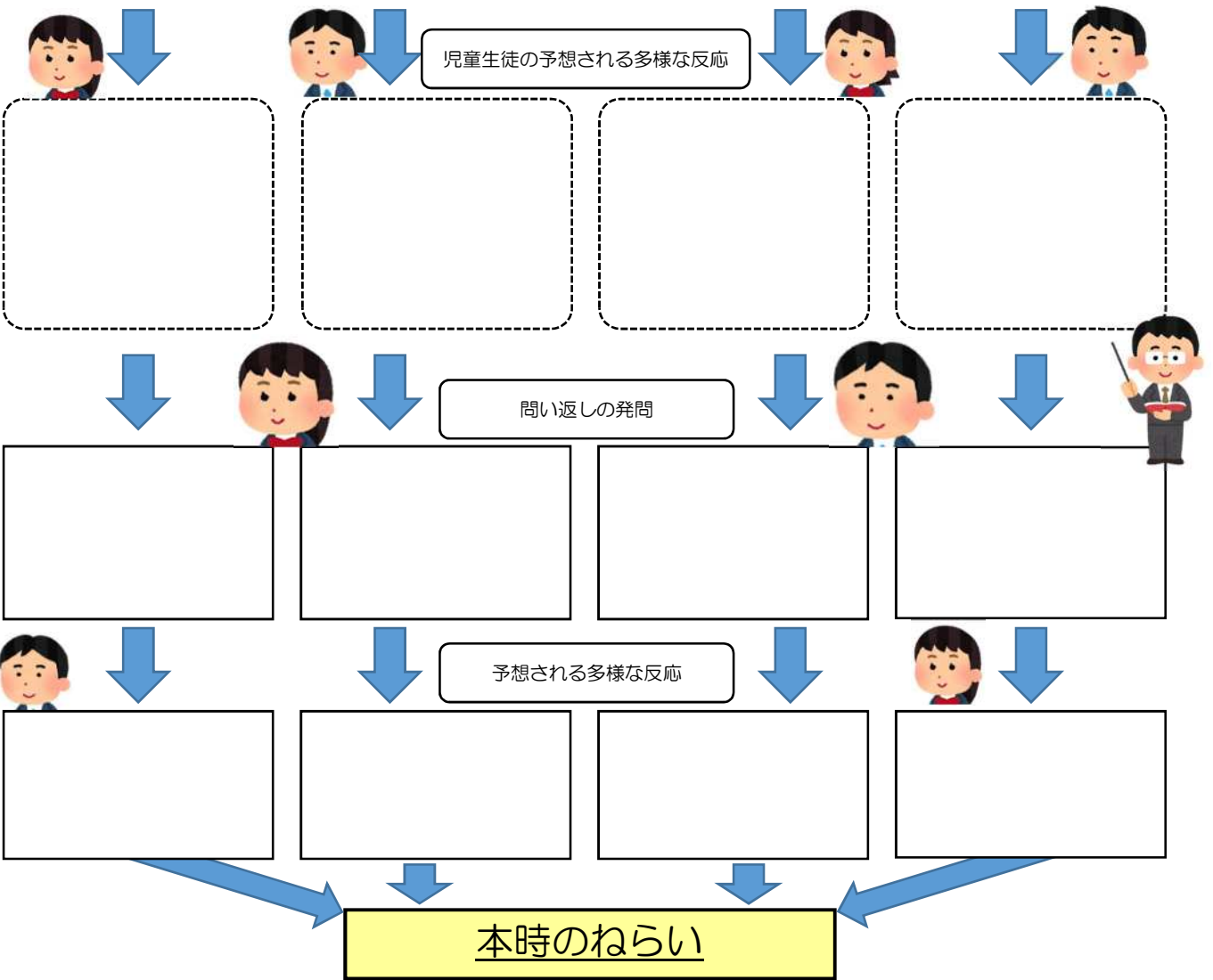


<p>★氷山の三層モデル (畿央大学 島恒生教授考案)</p> 	<p>①道徳的に変容した登場人物は、誰か。</p> <p>(A)</p>	<p>② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。</p> <p>(B)</p>
	<p>③ (A) が、変容を遂げて、どうなったか。(教材に書いてある様子)</p> <p>(C)</p>	
	<p>読解レベル (教材から読み取れること)</p>	
	<p>道徳的価値レベル</p>	

本時のねらいを明確にしましょう。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④



- ※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例
- ① 解決策の理由（動機）を問う発問 「どうしてそう思いましたか。」
 - ② 将来の結果（因果関係）を問う発問 「そうしたら、どうなると思いますか。」
 - ③ 過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問 「自分も同じような経験はありませんか。」
 - ④ 可逆性の原理を用いた発問 「自分がそうされてもよいですか。」
 - ⑤ 普遍性の原理を用いた発問 「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」
 - ⑥ 互恵性の原理を用いた発問 「それで皆が幸せになれるですか。」
 - ⑦ その他 「～は、どんな気持ちでしょうか。」
「～のしたことをどう思いますか。」
- ※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第2回）における岐阜大学大学院 柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編）

様式2（教諭） 授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】

指導の形態		学部 学年		指導者	
-------	--	----------	--	-----	--

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題	
②児童生徒の実態	
③単元で身に付けたい力<自立と社会参加の視点から>	単元名



④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力（指導要領から抜粋）

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

--



⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる(又は各教科等の見方・考え方を働かせる)児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主

学部・学年		指導者	
-------	--	-----	--

★学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

--

1 実態把握

(1)

子どもの姿	
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと	本人の苦手なこと、困っていること
本人の願い	



(2) (1)について、「自立活動の6区分27項目」に即して整理する。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション

(3) 数年後に目指す姿

--

(4) ① (2)で整理した姿から「何年か指導してきたが習得が難しいもの」「数年後に目指す姿との関連が弱いもの」を外す。
 ② 課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す。

	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>	
<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>
	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>	<div style="border: 1px solid black; width: 80%; height: 60%; margin: 0 auto;"></div>



③ 中心的課題を導き出した理由(②で考えたこと)を記述する。

2 実態把握をもとに、指導目標を設定する。

3 指導目標を達成するために必要な指導項目を選定する。

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目	<input type="checkbox"/> (1)生活リズムや生活習慣の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input type="checkbox"/> (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4)感覚統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (5)健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1～3つにまとめる。

具体的な指導内容			
指導場面			

* 今回行う授業に下線を引く。

5 主体的に取り組むことができるようにするための手立て(今回行う授業について)

様式2（教諭） 授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題					
児童生徒名					
指導目標 (長期目標)					
指導内容					
育成すべき 資質・能力との関連					
学習や生活の中で 見られる長所やよさ 興味・関心					



児童生徒名				
単元の指導目標				
単元名				
主な活動内容				

★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点（幼稚園は7点）を意識しましょう。

- ア 主体的に取り組む
- イ 改善・克服の意欲を喚起
- ウ 発達の進んでいる側面を更に伸ばす
- エ 自ら環境と関わり合う(幼稚園のみ)
- オ 自ら環境を整える
- カ 自己選択・自己決定を促す
- キ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。



児童生徒名						
単元の指導目標						
手立て(単元を通して)						
日時	活動内容	手立て 記録				準備物
		手立て 記録				
		手立て 記録				
		手立て 記録				

児童生徒名	評 価					
児童生徒の評価						
指導に対する評価	評価の視点	①活動内容 ④教具	②活動量 ⑤活動の場の配置	③活動の流れ ⑥指導目標の妥当性		

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 (.) 教科等名 ()

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法

5 結果

6 考察

7 成果と課題

8 参考文献等

※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。

※ 研修情報システムから接続できるサイトに掲載するので、記載内容については著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【6年研・課題研究・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名(例) 6年研・課題研究・111・〇〇中・〇〇〇〇

島根県教育センター所長 様

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和6年度 教職経験6年目研修 報告書

1 対象者

職名	教諭	氏名	研修用 個人番号※
----	----	----	--------------

※ 第1回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

2 研修の実施状況

(1) OJT研修

ア 授業づくり

(ア) 課題研究の発表

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
校内構想発表	月 日	
課題研究中間発表	月 日	
校内成果発表	月 日	

(イ) 授業研究

	研修内容	実施日	校内外の指導助言者等
1 回目	学習指導案審議	月 日	
	研究授業	月 日	
	研究協議	月 日	
2 回目	学習指導案審議	月 日	
	研究授業	月 日	
	研究協議	月 日	

イ 校内授業研究会参加

参加月日	授業者名(校外研究会参加の場合は、その名称)
月 日	

(2) Off-JT研修

ア オンデマンド研修

研修内容	研修月日	研修内容	研修月日
教育の情報化	月 日	教職員の倫理とサービス	月 日
カリキュラム ・マネジメント	月 日	キャリア教育	月 日

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
オンデマンド研修発表	月 日	

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【6年研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名(例) 6年研・報告書・111・〇〇中・〇〇〇〇

記入例

島教セ第123号
令和〇年〇月〇日

島根県教育センター所長 様

「文書番号」を取得する。

〇〇学校長 〇〇〇〇

令和6年度 教職経験6年目研修 報告書

1 対象者

職名	教諭	氏名	〇〇 〇〇	研修用 個人番号※	〇〇〇
----	----	----	-------	--------------	-----

※ 第1回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号(8桁の職員番号ではない)

2 研修の実施状況

(1) OJT研修

ア 授業づくり

(ア) 課題研究の発表

指導・助言をいただいた方の役職名やお名前を記載する

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
校内構想発表	5月〇日	校長、研究主任
校内中間発表	11月〇日	学年主任
校内成果発表	1月〇日	校長、教頭

(イ) 授業研究

	研修内容	実施日	校内外の指導助言者等
1 回 目	学習指導案審議	6月〇日	学年主任、教科主任
	研究授業	6月〇日	研究主任
	研究協議	6月〇日	校長、教頭
2 回 目	学習指導案審議	12月〇日	研究主任
	研究授業	12月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事
	研究協議	12月〇日	〇〇教育事務所〇指導主事

イ 校内授業研究会参加

参加月日	授業者名 (校外研究会参加の場合は、その名称)
7月〇日	〇〇 〇〇教諭

(2) Off-JT研修

ア オンデマンド研修

研修内容	研修月日	研修内容	研修月日
教育の情報化	7月〇日	教職員の倫理とサービス	7月〇日
カリキュラム ・マネジメント	8月〇日	キャリア教育	8月〇日

発表内容等	実施日	校内外の指導助言者等
オンデマンド研修発表	8月〇日	校長、教頭、学年の教員

※ PDFファイルに変換し、ファイル名を【6年研・報告書・研修用個人番号・学校名・氏名】として、提出する。
ファイル名(例) 6年研・報告書・111・〇〇中・〇〇〇〇

参考様式 1 (教諭)

令和6年度 教職経験6年目研修 課題研究レポート(中間発表用)

身に付けた資質能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 () 教科等名 ()

研究主題

1 研究の動機

2 研究の目的

3 研究仮説

4 研究の方法


5 これまでの成果と今後の課題

※ 教科書等の複製の掲載は不可とする。

※ 記載内容については著作権、個人情報や肖像権等に十分配慮すること。

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

<p>【実態】</p>	<p>【目標】</p>
<p>【事前】</p> <p>1 「身に付けた資質・能力を踏まえる」点</p>	<p>【授業メモ】</p> <p>【参考にしたい点】</p> <p>2 「単元(題材)の目標に迫る」点</p> <p>3 その他</p>
<p>【事後】</p> <p>【今後の授業実践や課題研究に反映したいこと】</p>	<p>《効果的な手立て・働きかけ》</p>



研修発表に関するアンケート（6年目研修）

氏 名（ ）

本日は、私の研修発表を聞いていただきありがとうございました。今後の研究（研修）をよりよくするため、以下のアンケートにご協力ください。

①発表内容が理解できましたか？	できた ある程度 少しだけ まったく
②よかった点	
③改善点	
④励ましの言葉	

ご協力ありがとうございました。

教職経験6年目研修 (教諭)

年間計画

目 次 (年間計画)

6年目研修の目的	33
校内指導体制	34
研修内容	35
4月	
教職経験6年目研修を受講することを確認する	36
教職経験6年目研修(教諭)についての事前調査に回答する	36
4月～5月	
6年目研修チームづくり	37
第Ⅰ回教育センター研修	37
5月～1月	
校内研究授業・研究協議(授業研究会)への参加	38
5月～6月	
課題研究構想メモ[様式Ⅰ]を作成する	39
課題研究の校内構想発表を行う	39
6月～7月	
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う	40
課題研究構想メモ[様式Ⅰ]を修正し、第Ⅲ回教育センター研修の資料を整える	40
課題研究構想メモ[様式Ⅰ]及び学習指導案を教育センターへ提出する	40
6月～8月	
第Ⅱ回教育センター研修	41
「オンデマンド研修」校内研修発表を行う	41
第2回校内研究授業に向けて、教材研究を行う	42
第Ⅲ回教育センター研修	42
8月～11月	
課題研究レポート(校内中間発表用)[参考様式Ⅰ]を作成する	43
課題研究の校内中間発表を行う	43
教職経験6年目研修における実施状況についてのアンケートに回答する	43
8月～1月	
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う	44
12月～2月	
課題研究レポート成果発表用[様式3]を作成し、教育センターに提出する	44
課題研究の校内成果発表を行う	44
2月	
第Ⅳ回教育センター研修	45
教職経験6年目研修 報告書[様式4]を作成し、教育センターに提出する	45

6年目研修の目的

さあ、教師としての「探究・発展期」がスタートしました。そのスタートにあたり、今年度は6年目研修で自己の資質能力をさらに高めましょう。

《6年目研修ではどんな力を高めるの?》



6年目研修は、1年間の実践的研修を通して、以下の3つの力を高めることを目的として行います。

- ・得意分野を開発・探究する力
- ・児童生徒等の理解と適切に対応する力
- ・組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学校課題に対応する力

・「一つの道を極めた者は全ての道に通じる」という言葉があります。自分の得意分野での授業研究を深め、探究していくことは、今後の教科指導(特に小学校は複数教科の指導)に生かされることになります。

・これまでの5年間、1時間1時間の授業に一生懸命取り組んでこられたことと思います。その授業を振り返ってみたとき、児童生徒の実態を踏まえた授業ができていたでしょうか。児童生徒が身に付けている資質・能力を把握し、その資質・能力をさらに伸ばすことができる授業を展開したいものですね。



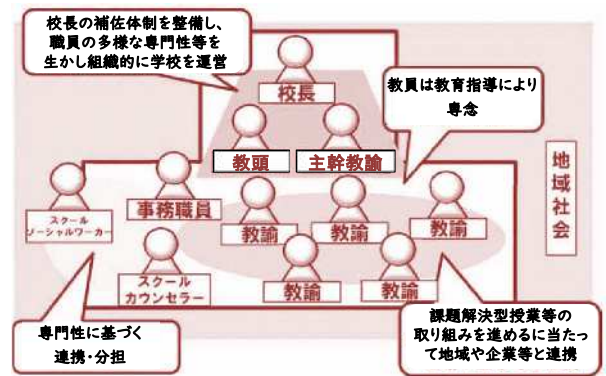
・担任(担当)だけで学級経営をすることはできません。また、学校課題に目を向けないまま教育活動を進めることもできません。学校組織の一員としての役割を理解し、同僚と協力して学級経営・学校運営に関わることで、子どもたちの成長があり、学校課題の解決につながっていきます。

これら3つの力を6年目研修を通して、身に付けます。

校内指導体制

「チームとしての学校」をつくり上げていくことが大切だと言われています。学校の教育活動を展開していくためには、教職員をはじめ多様な専門性をもつ職員が一つのチームとして、それぞれの専門性を生かして、連携・分担して行うことが求められています。

チームとしての学校とは、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、児童生徒等が必要な資質・能力を確実に身に付けることができる学校なのです。したがって、6年目研修においても、対象者一人ががんばるのではなく、チーム学校として連携し、対象者を支え、教職員が互いの資質能力を向上できるようにしていくことが、これからの学校教育を展開していくうえでも大切なのです。



6年目研修における校内指導体制

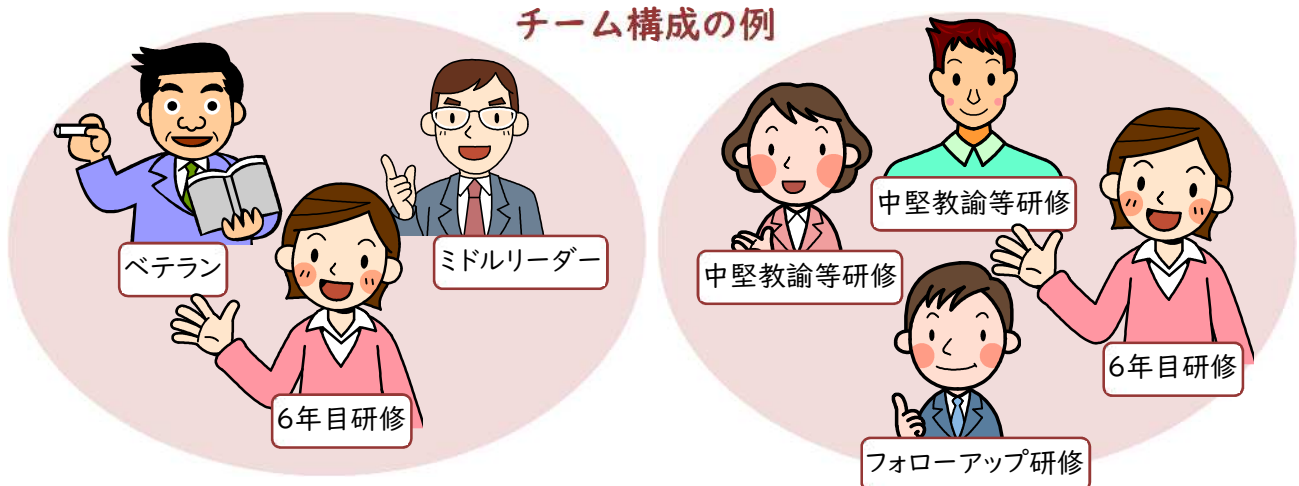
【校長】

- ・学校全体としての協力体制を確立し、適宜適切な指導及び助言を行う。
- ・対象者が本研修を実施するにあたり、校務分掌等について配慮する。

【6年目研修チーム】

- ・1年間を通じて校内で管理職を除いた3名以上(対象者を含む)のメンバーからなるチームで、対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

チーム構成の例



研修内容

6年目をむかえた皆さんは、教師としての仕事もわかり、教育の情熱も高まってきていることでしょう。管理職や先輩・同僚から教えてもらうこともたくさんありますが、自らの資質能力を自分で高めていく研修（自己研鑽）が望まれます。また、後輩の相談相手になったり、アドバイスを与えたりすることも積極的に行いましょう。

《6年目研修ではどんなことをするの？》

6年目研修では、以下の2つの研修があります。

OJT研修

日常の教育活動を通して、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける。

■授業づくり[通年]

- ・課題研究
- ・課題研究発表(3回)※
構想発表・中間発表・最終発表
- ・授業研究(2回)

■校内授業研究会参加

Off-JT研修

日常の職務を離れて、職務に必要な資質能力を計画的・重点的に身に付ける研修

■教育センター研修 [3.5日]

- ・集合研修 (1日)
- ・オンライン研修 (2日)
- ・オンデマンド研修 (0.5日)

※課題研究発表・・・学校の実態や発表内容等に応じて、全職員、学年部、6年目研修チーム、又は管理職等に対して発表を行う。



4月

教職経験6年目研修を受講することを確認する

- ・4月1日までに、自分が教職経験6年目研修受講対象者であることを確認し、校長に報告する。

教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査に回答する

[メ切4/11(木)]

- ・「研修情報システム MyPage>各種ダウンロード>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>教職経験6年目研修>教職経験6年目研修についての事前調査」のリンク先サイトから回答する。



- ・年間を通して研究する教科等を選択する。その際、自身の採用教科や授業の有無等を踏まえて決定する。P11の留意事項をよく読む。
- ・第I回教育センター研修において、研究する教科等の第I回校内研究授業の単元（題材）構想を立てる。遅くともそれまでに、研究授業を行う単元等を決めておくこと。

4月～5月

6年目研修チームづくり

- ・1年間を通じて、管理職を除いた3名以上(対象者を含む)のメンバーからなるチームで対象者を支え、お互いの資質能力の向上を図る。

[チーム編成の例]

(ア) 6年目研修対象者が最年少者の場合の
チーム編成

- ・幅広い年齢層でチームを編成し、それぞれの得意分野や経験からのアドバイスを受ける。

(イ) 中堅教諭等資質向上研修やフォローアップ研修等の対象者がいる場合の
チーム編成

- ・お互いの研修内容を関わらせながら、研修効果を高める。

(ウ) (ア)(イ)の混合チーム編成

- ・(ア)(イ)のよいところを取り入れ、チーム全体の資質能力の向上を図る。

(エ) 学校の課題解決(校内研究テーマの追究)に沿ったチーム編成

- ・学校の研究テーマとリンクさせ、6年目研修によって校内研究を深める。

など、学校や対象者の実態に応じたチームを編成する。



第Ⅰ回教育センター研修(オンライン研修)

- ・教育センター研修の期日、オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・オンライン研修は自校等で行うため、1日の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務(授業等)を割り当てない。(校内においては、出張と同様な対応をしてもらう)
- ・教育センター研修の2日前までに資料をダウンロードし、「授業づくり」グループ、担当指導主事、第Ⅱ回以降の教育センター研修の研修日を確認する。
- ・「授業づくり」で選択する教科の学習指導要領解説、教科書、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料(文部科学省 国立教育政策研究所発刊)等を熟読しておく。
- ・研究する教科等の第Ⅰ回校内研究授業の単元(題材)を決めておく。



5月～1月

校内研究授業・研究協議（授業研究会）への参加（年間1回以上）

- ・校内の教諭等の研究授業参観及び研究協議に参加することで、自らの授業力の向上及び課題研究の深化・発展に資する。
- ・可能ならば事前に授業者から学習指導案をもらい、当日までに熟読し、参考様式2「研究授業振り返りシート」[参考様式2]（P29）の【実態】【目標】を記入しておく。
- ・授業を参観しながら視点に沿って「研究授業振り返りシート」にメモする。
- ・授業研究会を振り返り「研究授業振り返りシート」にまとめる。
- ・校内の授業研究会に参加できない場合は、市町村の教育研究会や島根県教育研究会が主催する研究大会等に参加する。（P5を参照）



参考様式2
研究授業振り返りシート

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

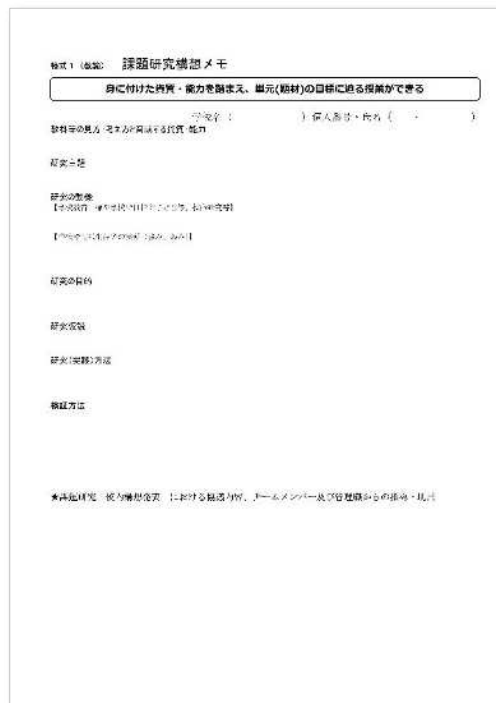
【実態】	【目標】
【授業メモ】	
1 「身に付けた資質・能力を踏まえる」点	2 「単元(題材)の目標に迫る」点
	3 その他
【今後の授業実践や課題研究に反映したいこと】	

《効果的な手立て・働きかけ》

5月～6月

「課題研究構想メモ[様式1]」を作成する

- ・第Ⅰ回教育センター研修で説明された「課題研究の進め方」をもとに、課題研究構想メモ[様式1]を作成する。
※ 個人番号の欄は、第Ⅰ回教育センター研修で配付した名簿の氏名の前に記載されている3桁の番号を記入する(8桁の職員番号ではない)。
- ・シートを作成するにあたり、チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等から指導・助言を受ける。



課題研究の校内構想発表を行う

- ・取り組む課題研究について自分自身の理解を深めるため、また、1年間にわたりどのような課題研究を行うのかを校内の教職員に理解してもらうために、研究構想を職員会議等で説明する。
- ・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があるようにする。
- ・発表の折に、1年間の研修に対する校内協力を依頼する。
- ・課題研究構想発表は遅くとも6月中旬までに行う。
- ・校内発表アンケート調査(「研修発表に関するアンケート」参照)を行い、今後の課題研究に生かす。



6月～7月

チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う(1回目)

- ・チームメンバー、ミドルリーダーや管理職等の指導・助言のもと、課題研究に基づく学習指導案(密案)を作成する。
- ・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案審議を行う。
- ・学習指導案審議をもとに学習指導案を修正する。
- ・チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。
- ・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。



課題研究構想メモ [様式1] を修正する

- ・課題研究の視点から、第1回校内授業研究の成果と課題を整理し、課題研究構想メモ[様式1]を修正する。
- ※課題研究等について、担当指導主事からのアドバイスを受けることができる。その際は、以下のことに留意する。
- ・アドバイスを受けた日時を、事前にメール・電話等で担当指導主事に予約する。
 - ・予約した日時に、担当指導主事に電話等をする。

課題研究構想メモ [様式1] 及び「学習指導案」(密案)を教育センターへ提出する
[メ切7/18(木)]

- ・校内授業研究会終了後、課題研究構想メモ[様式1]及び学習指導案(密案)をPDFファイルに変換して、教育センターへ提出する。



6月～8月

第Ⅱ回教育センター研修（オンデマンド研修）

- ・オンデマンド研修は自校等で行うため、半日程度の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。（校内においては、出張と同様な対応をしてもらう）
- ・研修情報システム MyPage [研修動画] からオンデマンド動画を視聴する。
- ・オンデマンド動画については、年度内の校内研修で実施（計画も含む）されたものは、必ずしも視聴する必要はない。（「教育の情報化と ICT 活用実践紹介」は必修）



「オンデマンド研修」校内研修発表を行う

- ・視聴した複数のオンデマンド研修の中から1つを選び、校内発表資料を作成する。
- ・オンデマンド研修後、2週間程度以内に校内研修会等にて、研修内容の発表を行う。
- ・説明する対象は、全教職員、学年部、教科部など、学校の実態に応じて決める。その際、少なくとも一人の管理職の出席があること。
- ・6年目研修や中堅研の受講者が校内にいる場合は、協力して一つの発表をしてもよいし、それぞれが別々の発表をしてもよい。
- ・校内発表アンケート調査（「研修発表に関するアンケート」[参考様式3]参照）を行い、参加者からの評価を得る。
- ・校内研修会で用いた資料（PDFファイル）を、発表終了後1週間以内に、教育センターへ提出する。
- ・詳細は、第Ⅱ回教育センター研修実施要項を参照する。 [最終締切 9月19日(木)]

6月～8月

第2回校内研究授業に向けて、教材研究を行う

- ・普段の授業（課題研究実践）や第1回校内研究授業、教育センター研修で得たことを生かし、第2回校内研究授業に向けて構想を深める。
- ・研究教科等で目指す児童生徒等の姿を明確にしたり、実態についての資料収集・分析方法を研究したりする。
- ・学習指導要領解説、教科書、「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料、これまでの研究実践等を読む（教材研究）。
- ・単元(題材)に関わる児童生徒の学習経験、生活経験やレディネスを収集する。
- ・単元(題材)の学習を通して、児童生徒に「どのような資質・能力を育てたいのか」を明確にする。
- ・第Ⅲ回教育センター研修までに、2回目の校内研究授業の単元(題材)について、「授業づくりのプロセス構想シート[様式2]」の①～⑨まで記入しておく(箇条書きでよい)。

※この「授業づくりのプロセス構想シート」を第Ⅲ回教育センター研修で使用する。

第Ⅲ回教育センター研修（集合研修）

- ・教育センター研修の期日、会場を確認しておく。
- ・提出された同グループの課題研究構想メモや1回目の校内研究授業の学習指導案等をダウンロードし、持参する。
- ・2回目の校内研究授業の「授業づくりのプロセス構想シート[様式2]」（①～⑨まで記入済みのもの）を持参する（グループの人数+指導主事の人数分）。

※詳細は、第Ⅲ回教育センター研修の実施要項を参照すること。



8月～11月

課題研究レポート（校内中間発表用）[参考様式1]を作成する

- ・第1回校内授業研究やこれまでの実践を踏まえ、課題研究レポート(中間発表用)[参考様式1]を作成する。

※研修に役立つ資料(P80)の「過去の課題研究レポート」を参照

※今年度のレポート形式は、枠罫線を省いています。

- ・当資料を作成するにあたり、チームメンバー等から指導・助言を受ける。

参考様式1 (抜粋)
令和〇年度教職経験6年目研修 課題研究レポート(中間発表用)
身に付けた資質能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名: _____ 所属(部署)・学年: _____ 氏名(敬称略): _____

研究主題

- 1 研究の動機
- 2 研究の目的
- 3 研究の経緯
- 4 研究の方法
- 5 これまでの成果と今後の課題

※ 印刷用紙は、印刷用紙を指定した印刷機で印刷してください。
※ 印刷用紙の裏面に記載の注意事項を必ずご確認ください。

課題研究の校内中間発表を行う

- ・作成した課題研究レポート(中間発表用)[参考様式1]をもとに、校内で課題研究中間発表を行う。
- ・中間発表は、チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。
- ・中間発表の進め方は、学校で創意工夫する。
- ・校内研修発表アンケート(「研修発表に関するアンケート[参考様式3]」参照)を行い、今後の課題研究に生かす。



教職経験6年目研修における実施状況についてのアンケートに回答する

- ・研修情報システム MyPage マイキャビネットに掲載のリンク先サイトから回答する(11月中旬掲載予定)。
 - ・校内中間発表の実施日
 - ・校内教員からのアドバイス
 - ・今困っていること、指導主事に相談したこと



などについてのアンケートを実施します。

8月～1月

チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言のもと、
「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」を行う（2回目）

- ・これまでの実践、課題研究中間発表、校内研究授業・研究協議（授業研究会）への参加、チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言等から得たことを生かし、課題研究に基づく学習指導案（密案）を作成する。
- ・チームメンバーを含む複数教員で、学習指導案の審議を行う。
- ・学習指導案の審議をもとに学習指導案を修正する。
- ・チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数教員で、研究授業・研究協議を行う。
- ・学習指導案審議、研究授業、研究協議等の記録を残し、今後の課題研究に生かす。



12月～2月

課題研究レポート（成果発表用）[様式3]を作成し、教育センターへ提出する
[メ切 1/23（木）]

- ・1年間の課題研究実践のまとめを課題研究レポート（成果発表用）[様式3]を使って作成する。
- ・レポートを作成するにあたり、チームメンバー、管理職やミドルリーダーから指導・助言を受ける。
- ・著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮すること。
- ・「課題研究レポート」をPDFファイルに変換して、教育センターに提出する。

課題研究の校内成果発表を行う [2/21(金)までに]

- ・作成した「課題研究レポート」をもとに、校内で課題研究の校内成果発表を行う。
- ・成果発表は、チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で行う。
- ・成果発表の進め方は、学校で創意工夫する。

2月

第Ⅳ回教育センター研修（オンライン研修）

- ・オンライン研修の期日、時間を確認しておく。
- ・オンライン接続の方法を確認しておく。
- ・オンライン研修は自校等で行うため、1日の研修時間を設定する。その際、研修時間に校務（授業等）を割り当てない。（校内においては、出張と同様な対応をしてもらう）
- ・教育センター研修の2日前までに資料をダウンロードし、準備しておく。



教職経験6年目研修 報告書[様式4]を作成し、教育センターに提出する

[メ切 2/27(木)]

- ・「7 提出物、提出方法及び締切日」(P8)にしたがって、報告書等を提出する。
- ・対象者は、「報告書」「課題研究レポート(最終報告用)」、「学習指導案(密案1回分)」をそれぞれ別々のPDFファイルにして、校長に提出する。
- ・校長は、研修情報システム学校 Page の[報告書提出]からそれぞれ別々に提出する。

教職経験6年目研修 (教諭)

授業づくり



目 次 (授業づくり)

授業づくり	50
授業づくりのねらいと考え方	51
授業づくりのプロセス〈単元(題材)づくり〉	52
授業づくりのプロセス構想シート(記入例)	60
授業づくりのプロセス構想シート【道徳】(記入例)	62
授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】(記入例)	64
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】(記入例)	66
授業づくりのプロセス構想シート【自立活動】(記入例)	68
学習評価	70
課題研究の進め方	71
課題研究構想メモ(記入例)	72
課題研究構想メモ(チェック表)	73
課題研究 構想発表(校内発表)の進め方の例	74
授業づくり②(第Ⅲ回教育センター研修)	75
課題研究 校内中間発表の進め方の例	76
課題研究 校内成果発表の進め方の例	77
課題研究 成果発表(第Ⅳ回教育センター研修)	78
授業改善プランニングシート(第Ⅳ回教育センター研修)	79

授業づくり

教職経験6年目研修(教諭)では、「課題研究」及び「授業研究」をあわせて「授業づくり」と呼んでいます。年間を通じて以下のテーマを意識した研修に心がけましょう。

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。

課題研究

- ・自らが選択した教科等で研究
- ・課題研究の構想・中間・成果発表
- ※校内と教育センター研修で実施

授業研究

- ・課題研究に関連した授業及び協議(2回)
- ※学習指導案審議と研究授業と研究協議をもって1回とする

◆経験年数に応じた研修において大切にしたい授業力の視点 (●は重点)

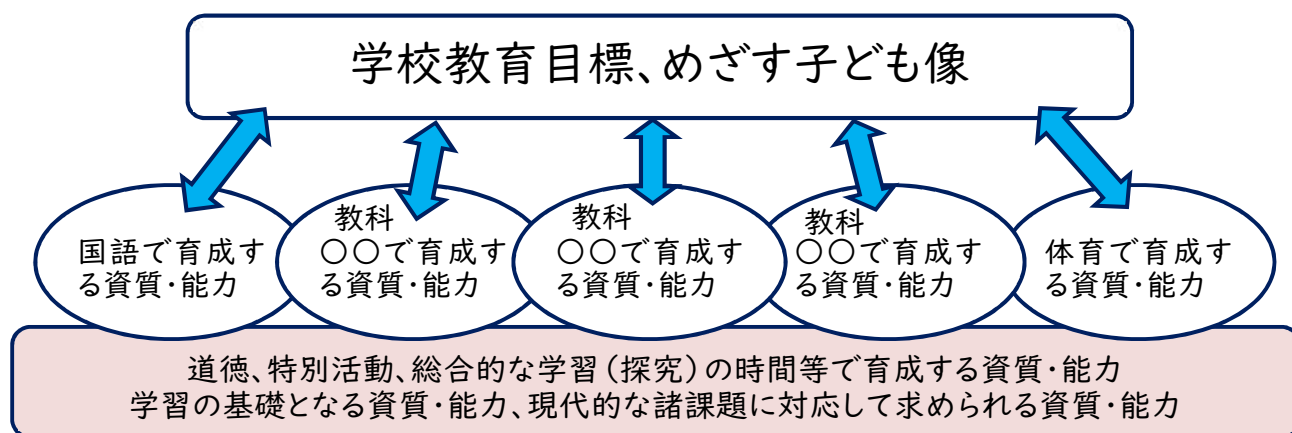
	初任者研修	6年目研修	中堅教諭等資質向上研修
授業でめざす子どもの姿	教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす ～ 主体的・対話的で深い学びを通して ～		
「授業づくり」におけるねらい	育成したい資質・能力を踏まえ、1時間1時間の指導の意図を明確にした授業ができる。	身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる。	教科等横断的な視点に立った資質・能力※を踏まえ、教科等の目標に迫る授業ができる。 <small>※「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」及び「現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力」等のこと</small>
指導と評価の一体化 ～授業改善につなげる～			
構想力及び生徒理解力	指導のねらい	●学習指導要領に示された児童生徒等が学習前に身に付けてきている資質・能力を踏まえ、児童生徒等の実態を把握する。 ●児童生徒等が学習前に身に付けてきた育成する資質・能力を踏まえ、単元(題材)において育成する資質・能力を明確にする。	●学校教育目標と教科等の指導内容の系統性、他教科等との関連性を踏まえ、育成する資質・能力を明確にする。
	指導計画	●児童生徒等の主体的・対話的で深い学びが実現される学習活動を設定する。 ・児童生徒が教科等の見方・考え方を働かせる授業を計画する。	●児童生徒等が学習前に身に付けてきた資質・能力を踏まえ、目指す資質・能力を育成するための単元(題材)計画等を構成する。 ・児童生徒等が教科等の見方・考え方を働かせる授業を行う。
	学習評価	・指導と評価の一体化の意義を理解するとともに、評価の計画を立てて授業を行い、目標に準拠した評価をする。	●単元(題材)の目標と評価規準を見通しながら、単元における評価場面や方法を工夫し、資質・能力を育成するための学習指導に活かす。
指導力	<ul style="list-style-type: none"> ・学び合う集団づくりに努める。(学習規律、安心して学習できる場) ・児童生徒等の発達の段階を踏まえた支援を行う。(個々のニーズに応じた指導や支援、ユニバーサルデザインの視点) ・指導技術を高める。(発問、言葉かけ、板書、教材・教具、ICT活用、学習形態等) 		
情熱・使命感	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な価値観を尊重する。 ・新しい教育情報等を進んで得ようとする。 ・他者から学ぶ。(同僚、管理職、保護者・地域、児童生徒等から) 		

授業づくりのねらいと考え方

これまでの授業を振り返り、「探究・発展期」を充実させて、
教師としての資質能力の向上を図りましょう！

1年かけてめざす姿

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業ができる



- (1) 所属校の学校教育目標等を理解する。
- (2) 学校教育目標の実現のため、各教科等において育成する資質・能力を、
 - ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」
 - イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」
 - ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよく人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養)」の三つの柱で整理するとともに、各教科等の「見方・考え方」「育成する資質・能力」を理解する。
- (3) 身に付けた資質・能力を踏まえ、教科等の相互関連や学年・学校段階間の円滑な接続を意識した実践の手立てを考える。
- (4) 単元（題材）指導計画・評価計画を構想し、指導&評価をする。

「児童生徒が、教科等の見方・考え方を働かせ、教科等が目指す資質・能力を伸ばす」
ことができる授業を実践して、学校教育目標(めざす子ども像)の実現をめざす!

授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》

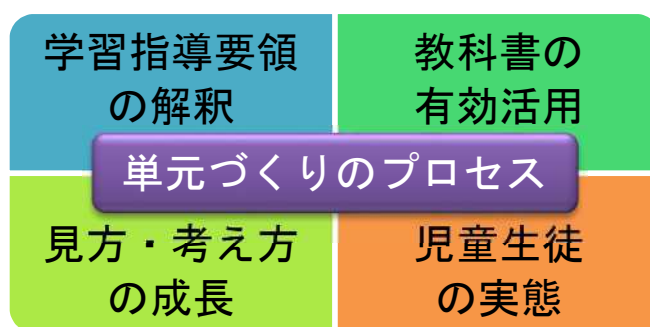
あなたは、授業の構想を立てるとき、何から読み（見）始めますか？

- ・教科書
- ・教科書の指導書
- ・これまでに実施された研究授業等の学習指導案
- ・学習指導要領（教科の解説）
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ・その他

1番目に見るのは教科書ではないでしょうか。もちろん、それが間違いというわけではありません。教科書の教材は、一般性が高く、全国どこでも通用します。いつでも誰でも活用できるものです。しかし、目の前にいる児童生徒の実態にいつでも適しているとは言えません。

教科書に書かれている内容を教えることが大切なのではありません。学校で学んだことが、児童生徒の「生きる力」となって、明日に、そしてその先の人生につながる力、これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現する力。つまり、これからの社会を生きていくうえで必要とされる資質・能力を育てる大きな使命が教師にはあるのです。そのためには、教科や単元(題材)等で育成する資質・能力は何なのかをしっかりと理解しておくことが大切です。

教科等で育成を目指す資質・能力が示されているのが「学習指導要領(解説)」です。学習指導要領を読み込み、何をいかに学んでいくかを考えることで、児童生徒の実態に応じた最適な単元(題材)や授業をデザインすることができます。また、教科書の意図することも理解でき、教科書を越えた単元(題材)を構想することもできます。



「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」より
齊藤一弥・高知県教育委員会(ぎょうせい)

①学校教育目標、めざす児童生徒像、研究主題との関わり

「学校教育目標」は、その学校が行う教育活動の究極の目的を実現するために達成すべき具体的な目標です。学校、児童生徒、保護者、地域が手を取り合い、心を一つにして取り組むものでもあります。したがって、教職員だけが知っていればよいというものではなく、その学校にかかわる全ての人が理解し、協力していくものです。学校教育目標が実現された児童生徒の姿として表したものが「めざす児童生徒像」です。そして、その目標実現のために行う教育活動を実践・検証していくのが研究です。

ところで、「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編」は、学校教育目標を

設定する際の視点として次のように示しています。

- (1) 法律及び学習指導要領に定められた目的や目標を前提とするものであること。
- (2) 教育委員会の規則、方針等に従っていること。
- (3) 学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。
- (4) 学校や地域の実態等に即したものであること。
- (5) 教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。
- (6) 評価が可能な具体性を有すること。

このことからわかるように、学校教育目標と毎日の授業は、切っても切り離せません。単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)で育てる資質・能力が学校教育目標等どのように関わっているかを確認しましょう。

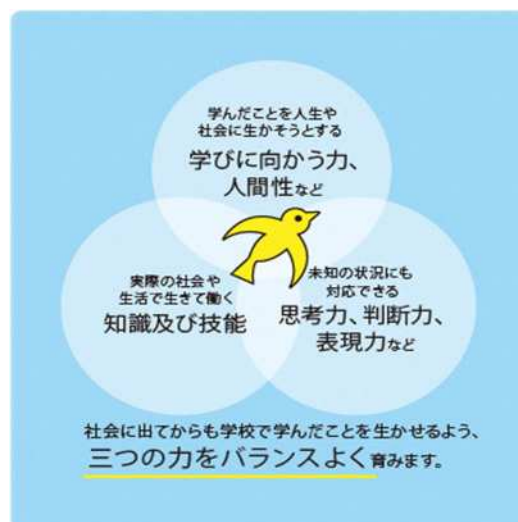
②単元(題材)名

単元名(教科によっては「題材名」「主題名」等、別の表記もある。以下これらをまとめて「単元(題材)名」と記す。)は、いくつかの教材や活動で意図をもって構成された一連の学習活動を表しています。学習指導要領に示されている内容を単元(題材)名にすることもありますが、できれば児童生徒が見いだした問いやその単元(題材)で追究する課題と結びつく単元(題材)名、児童生徒が取り組んでみたい魅力ある単元(題材)名を考えましょう。

③教科、単元(題材)で育成する資質・能力

この度の学習指導要領は、「内容ベース」から「資質・能力ベース」への転換が図られています。新しい時代を生きる児童生徒に必要な資質・能力が「知識及び技能」(教科によっては一部表現が異なる)「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として整理されました。「何のために学ぶのか」という学習の意義を共有しながら、授業の創意工夫や教科書等の教材の改善を行えるよう、すべての教科でこの三つの柱に基づく児童生徒の学びを後押しすることが求められます。

資質・能力ベースの教育では、「何を知っているか」から「どのようなことが成し遂げられるか」「いかなる問題(課題)解決ができるか」へ視点を変え、これまでの授業を見つめ直すことが大切です。



文部科学省 HP より

④学習評価と評価規準

「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」(中央教育審議会)において、学習評価の改善の基本的な方向性が示されました。

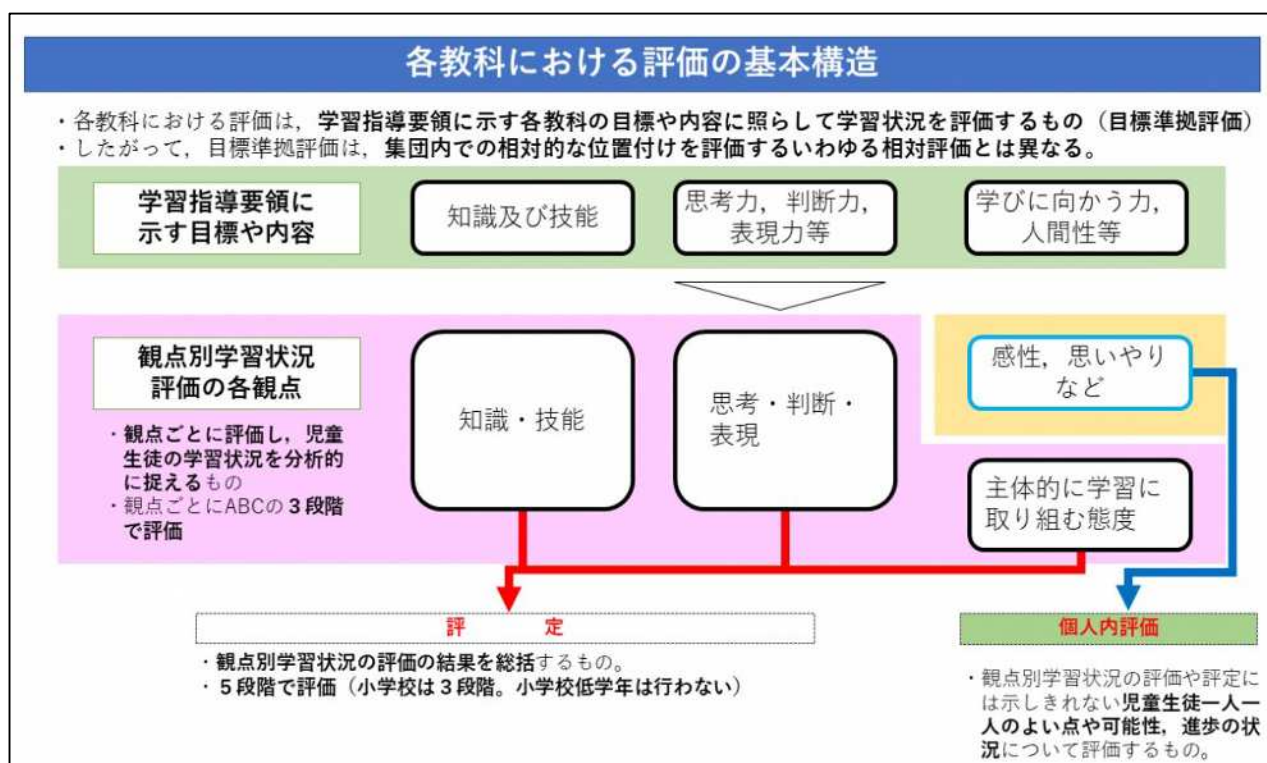
- ・児童生徒の学習改善につながる評価へ

- ・教師の指導改善につながる評価へ
- ・これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していく

このように、学習評価の主たる目的は、「児童生徒の学習改善」と「教師の指導改善」の2つです。学習評価を通じて、

- ・学習指導の在り方を見直すこと
- ・個に応じた指導の充実を図ること
- ・学校における教育活動を組織として改善すること

で、学校全体として組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ります。「指導と評価の一体化」は、教育活動の質の向上を図る「カリキュラム・マネジメント」の中核的な役割を担っています。教師は、各教科等の目標の実現に向け、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や児童生徒の学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすために、学習評



「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 より （国立教育政策研究所）

価を行います。

各教科等の評価については、「観点別学習状況の評価」と「評定」があります。「観点別学習状況の評価」とは、学校における児童生徒の学習状況を、複数の観点から、それぞれの観点ごとに分析する評価のことです。「評定」は、各教科の学習の状況を総括的に評価するものであり、数値で表します。

観点別学習状況の評価は、学習指導要領で示された「育てたい資質・能力」の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」に沿って、それぞれ「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三つの観点で評価します。

《知識・技能の評価》

- ・学習の過程を通じた個別の知識及び技能の習得状況
- ・それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているか

《思考・判断・表現の評価》

- ・知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているか

《主体的に学習に取り組む態度の評価》

- ・知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ・上記の粘り強い取組の中で、児童生徒が自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面

児童生徒が各教科等での学習において、どの観点で望ましい学習状況が認められ、どの観点到課題が認められるかを明らかにすることは、具体的な学習や指導の改善につながります。

各学校において目標に準拠した観点別学習状況の評価を行うに当たっては、観点ごとに評価規準を定める必要があります。

評価規準とは、観点別学習状況の評価を的確に行うため、学習指導要領に示す目標の実現の状況を判断するよりどころを表現したものであり、新しい学力観に立って児童生徒が身に付ける資質や能力の質的な面を表したものです。

単元(題材)の評価規準は、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえて作成します。作成に当たっては、

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(小学校、中学校、高等学校)」(国立教育政策研究所)を活用しましょう。



⑤見方・考え方を働かせている児童生徒

学習する内容は、これまでの学習で得られた知識、技能、思考力、判断力、表現力等を活用することで課題解決できるものがほとんどです。つまり、児童生徒自身が見方・考え方を働かせることによって、新たな学習に向かって主体的に取り組み、資質・能力をさらに伸ばしたり、新たな資質・能力を身に付けたりしていきます。

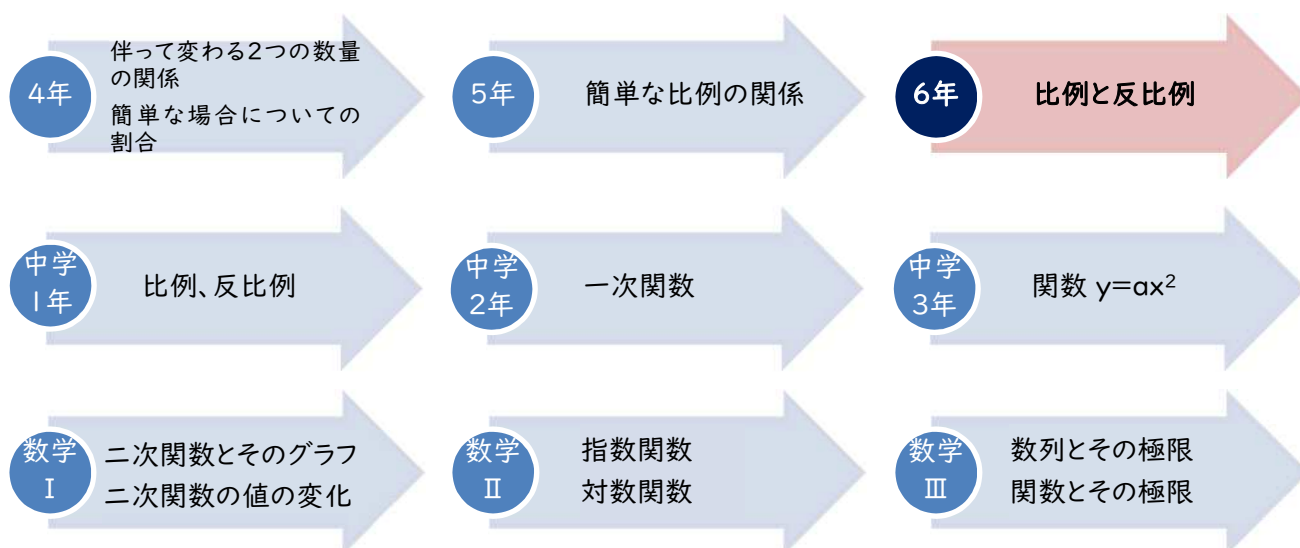
したがって、見方・考え方を働かせる経験を児童生徒が積み重ねる授業を構想することが大切です。単元(題材)の導入で「新しいことを勉強するよ」「勉強がだんだん難しくなっていくよ。しっかり勉強しようね」と、児童生徒への意欲喚起をする言葉がけを耳にします。この言葉がけを「これまでの勉強が役に立つかも」「この問題を解決するためには、これまで習ったことを上手く使えないかな」のような、児童生徒自らが見方・考え方を働かせたくなるように変えていきましょう。

授業の中で、困っている児童生徒に対して「ヒントカード」等を準備することがあります。それも支援の一つの方法ですが、むしろその単元(題材)と関係ある学習の足あとの掲示、ノート、教材等を自由に見たり触ったりできる環境を整えておきましょう。児童生徒は課題解決の過程で、必要に応じて自ら選択しながらその環境を活用していきます。

⑥単元(題材)で身に付ける資質・能力のつながり

全ての学習内容は、過去の学習(生活)からつながっており、そして、未来の学習(生活)につながっていきます。児童生徒が見方・考え方を働かせることができるよう、教師が課題提示の仕方や指導方法を工夫すれば、児童生徒は学びの連続性に関心を持って取り組みます。

そこで、単元(題材)を構想するときは、その単元(題材)との前後のつながりを学年・校種を超えて見ておくといよいでしょう。例えば、小学校6年算数で学習する「比例」を見てみましょう。



このように、「比例」は小学校6年だけで学習するのではなく、少なくとも小学校4年生から(基礎はもっと前から)学んでおり、数学Ⅲまで続いていきます。一つ一つが新しい学習内容ではなく、それぞれが関連し合っていることを理解し、見方・考え方が働く学習を構想しましょう。

⑦児童生徒の実態

授業では、児童生徒の実態把握は欠かせません。これから学習する内容について、興味・関心の程度はどれだけなのか、どのような問題意識があるのか、どのような資質・能力が身に付いているのか(何を学んでいるのか)、この単元(題材)で身に付ける資質・能力と比べ何がたりないのかなど、さまざまな視点から児童生徒の実態を知ることが大切です。そして、児童生徒と単元(題材)の学習対象との関わり方を考え、児童生徒自らが(または教師と共に)「問い」を見いだせるようにしていきます。

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

児童生徒が、単元(題材)の学習対象と関わり「問い」を見いだせば、既に主体的な学習の一步を踏み出しています。ここで大切なことは、その問いがこれから学習するゴールと対応した問いであるかどうかです。児童生徒が、自らの問いの解決に一所懸命取り組んだとしても、ゴールと関係ない課題解決では、単元(題材)目標は達成されません。教師には、児童生徒が目指すべき課題へと導いていく大切な役目があります。

教師は、本時のねらい(単元(題材)のねらい)をしっかりと把握したうえで、児童生徒が、課題解決の目的や目標(ゴール)を意識し、課題の解決までの過程を思い描き、見方・考え方を働かせて課題解決できるような学習過程を展開します。

まとめや振り返りについては、児童生徒自身が「何ができるようになったのか」「どのような見方・考え方を働かせて解決できたのか」「どんな新しい見方・考え方を働かせることができるようになったのか」「理解したこと・できるようになったことをこれからどのように活用していけるのか」などを自覚できるようにすることが大切です。

ところで、「主体的・対話的で深い学び」の主語は誰でしょう。もちろん「児童生徒＝学習者」です。従来の学習指導要領は「教員が何を教えるか」という観点を中心に組み立てられていました。そのことは、教科等の縦割りを越えた指導改善の工夫や、指導の目的を「何を知っているか」ととどまらず「何ができるようになるか」にまで発展させることを妨げていました。そこで、現学習指導要領では、まず学習する児童生徒の視点に立ち、教育課程全体や各教科等の学びを通じて「何ができるようになるのか」という観点から、育成を目指す資質・能力が整理されました。その上で、「何を学ぶか」という、必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という、児童生徒の具体的な学びの姿を考えながら構成していくこととしました。児童生徒が「どのように学ぶか」の姿として示されたのが「主体的・対話的で深い学び」です。

これを指導者側から見たとき、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、授業をどのように変えていけばよいかを考えていくこととなります。



文部科学省 HP より

主体的・対話的で深い学

びの実現に向けた授業改善の具体的な内容については、中央教育審議会答申において、次の三つの視点に立った授業改善を行うことが示されました。

- (1) 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているかという視点。
- (2) 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているかという視点。

(3) 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているかという視点。

ここからもわかるように、例えば「対話的」と言ったとき、単に「個人思考」→「ペアでの話し合い」→「グループでの話し合い」→「全体での話し合い」のような話し合いの形式のことを言っているのではありません。「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びなのかをしっかりと理解し、その実現に向けての授業改善をしていくことが大切です。

⑨教師の評価言

あなたは、1単位時間の授業で、何分話していますか？教師として何を話していますか？教師が発するひと言で、児童生徒の学習活動が活発化することもあれば停滞することもあります。教師は、常に自らの発問・発言を磨き、児童生徒を「主体的・対話的で深い学び」へと促し、導いていきます。教師の言葉がけの中でも、児童生徒への評価言は特に重要です。児童生徒の発言(考え)や行動の一つ一つにどのような評価を与えるのか、学習の場面や児童生徒の反応に応じた評価言を考えておくことも大切です。これらを積み重ねることによって、ふだんの授業の中で最適な評価言が自然に口から出るようになっていきます。

⑩単元(題材)の指導と評価の計画

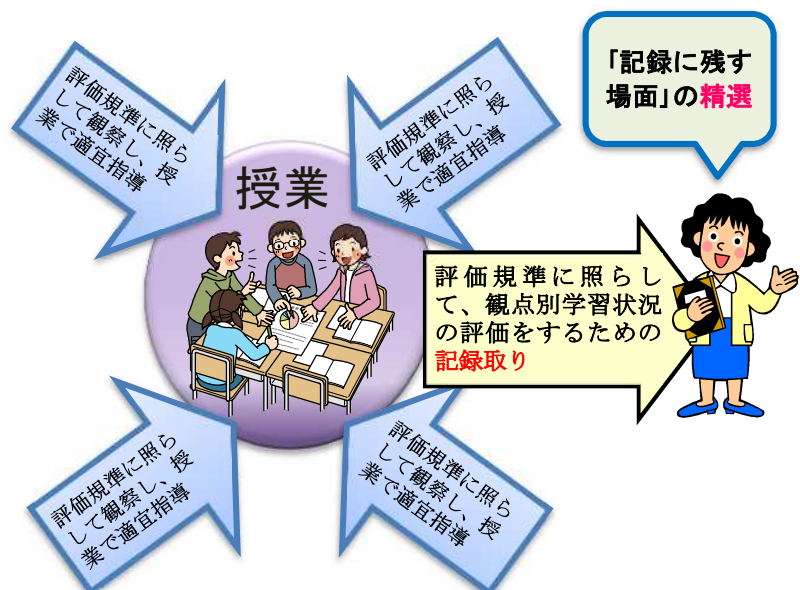
○ 目標(ねらい)・学習活動

各時間の目標・学習活動は、その時間で児童生徒がどのような資質・能力を身に付けるのか、そのためにどのような学習活動を行うのかが明確になっていることが大切です。

○ 学習評価(評価規準と評価方法)

これまでの学習評価については、次のような問題が指摘されました。

- ・学期末や学年末の事後的な評価に終始してしまうことが多く、学習評価の結果が児童生徒の学習改善につながっていない。
- ・「関心・意欲・態度」の観点について、挙手の回数や毎時間ノートをとっているかなど、性格や行動面の傾向が一時的に表出された場面を捉える評価であるような誤解が払拭し切れていない。
- ・教師によって評価の方針が異なり、学習改善につなげにくい。



そこで、このような課題や働き方改革を踏まえ、学習評価についての検討がなされ、改善されています。

例えば、毎時間、三つの観点全てについて評価したり、児童生徒全員について記録をとり総括の資料とするために蓄積したりすることは現実的ではありません。単元(題材)の目標を分析し、各時間の目標(ねらい)にふさわしい1~2観点到評価項目を精選するとともに、記録に残す場面も精選することが大切です。そこで、児童生徒全員の学習状況を記録に残す場面や適切に評価するための評価方法等を単元(題材)構想時に計画します。詳しくは、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)をご覧ください。

学習指導案

学習指導案の形式は決まっています。以前は、島根県教育センターから例を示していました。しかし、学習指導案の形を示すことで、以下のような課題も生じていました。

- ・どれも同じ画一的な指導案になっている。
- ・研究授業の1時間を中心に授業を構想している。
- ・学習指導案の作成が目的になり、教科書や指導書からのコピー&ペーストが増えた。
- ・研究授業には力を入れるが、ふだんの授業改善への関心は大きいとは言えない。など

これらの問題への対応や、学習指導要領の趣旨に沿った新しい学習指導案が学校で開発されつつあることを鑑み、学習指導案の形式を提示することをやめました。その代わりに、学習指導案を作成する前(ふだんの授業をする前)に、必ず考えてほしい「授業づくりのプロセス《単元(題材)づくり》」を示すことにしました。まずは、この単元(題材)づくりを参考に、単元(題材)で育成する資質・能力を常に意識した授業を構想してください。そして、その構想に基づいて、学校(自分)独自の学習指導案を作成しましょう。

なお、さまざまな学習指導案が、書籍、研究会等でも紹介されています。そちらも参考にしてください。

参考文献

- ・学習指導要領(文部科学省)
- ・「新教育課程を生かす能力ベースの授業づくり」齊藤一弥・高知県教育委員会
(ぎょうせい)
- ・国立教育政策研究所プロジェクト研究「学校における教育課程編成の実証的研究」(平成29年度~令和3年度)「学習指導要領を理解するためのヒント」(国立教育政策研究所)
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料(国立教育政策研究所)

授業づくりのプロセス構想シート（記入例）

教科等	算 数	学年	5 年	指導者	〇〇 〇〇
-----	-----	----	-----	-----	-------

①学校教育目標、めざす子ども児童生徒像、研究主題

心豊かでたくましく 仲間とともに進んで学ぶ子の育成

進んで学び 考える子

思いやりがあり 助け合う子

生き生きと活動し がんばりぬく子

②単元(題材)名(単元を貫く問い、育成する資質・能力などにつながる名称)

比べ方を考えよう

③単元(題材)で育成する資質・能力	④単元(題材)の評価規準
<p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方についての理解。 ・それを求めること。 	<p>【知識・技能】（職業に関する教科【知識・技術】）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方について理解している。 ・単位量当たりの大きさについて理解している。 ・異種の二つの量の割合で捉えられる速さや人口密度などを比べたり表したりすることができる。
<p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目する。 ・目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察する。 ・それらを日常生活に生かす。 	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じた、大きさの比べ方や表し方を考えている。 ・日常生活の問題(活用問題)を、単位量当たりの大きさを活用して解決している。
<p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度。 ・数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする態度。 	<p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、単位量当たりの大きさを用いて比べることのよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用しようとしている。 ・単位量当たりの大きさを活用できる場面を身の回りから見つけようとしている。

⑤見方・考え方を働かせている児童生徒の姿

(課題解決のために、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方を働かせているのか、既習の学びをどのように活用しているのか)

・混み具合を比べるためには、人数だけでなく面積も必要だね。

・一方をそろえれば比べられるね。(比例関係を活用して)

・混み具合も単位量当たりの大きさの考えだね。

・かかった時間だけだと速さは比べられないね。(時間と道のり(距離)が知りたい)

・基準量を1にそろえると複数のものを一度に比べられるね。

・実際はずっと同じ速さじゃないけど、平均して同じ速さで走ったと考えよう。

・複数のものを比べるときは、公倍数よりも単位量当たりの大きさの方が比べやすいね。

・速さ、道のり、時間の三つの量の関係は変わらないね。

・

⑥単元(題材)で育成する資質・能力のつながり(小学校 → 中学校 → 高等学校)[..]は紙面上省略していることを表している

第1学年 ◆身のまわりのものの特徴に着目し、量の大きさの比べ方を見出したり、量の大きさを表現したりすること。	第2学年 【数の構成と表し方】 ◆簡単な分数に.. ◆一つの数を.. 【乗法】 ◆乗法の意味に.. 【長さやかさの単位と測定】 ◆長さの単位及び..	第3学年 【除法】 ◆除法の意味に.. ◆除法と乗法や.. 【長さ、重さの測定と単位】 ◆身の回りの..	第4学年 【簡単な場合についての割合】 ◆ある二つの数量..	第5学年 【割合】 ◆ある二つの数量.. ◆日常の事象に..	第6学年 【比例】 ◆伴って変わる.. 【比】 ◆比の意味や..	中学校 【関数】 ◆表、式、グラフを.. ◆関数として.. ◆関数を用いて..
---	---	---	--------------------------------------	---	--	---

⑦児童生徒の実態(単元(題材)にかかわる興味・関心、問題意識、学習前と後の資質・能力の差(違い)、重点指導内容など)

- ・長さや重さなど、その大きさを一つの量(mやg等)で表し、比較をしてきている。
- ・「このバスは混んでいる」「〇〇さんは走るのが速い」など、子どもたちは会話の中で、混み具合や速さについて異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり、比較したりして話をするのではない。
- ・時速 60kmと時速 50kmの速さを比べるときも、60 と 50 を比較しているだけで、異種の二つの量の割合としてその量の大きさを捉えたり比較したりしているとは限らない。

⑧児童生徒自ら問いを見だし、主体的・対話的で深い学びを通して解決していくための手立てや支援

- ・混み具合や速さは、「一つの量では表したり比較したりすることはできないこと」「異種の二つの量が必要であること」「どちらか一方の数量をそろえれば比べられること」「目的に応じた処理の仕方を工夫すること」について、子ども自身が気づくことができるようにする。
- ・混み具合や速さを比較する場面を、図や動画を使って提示する。その際、混み具合や速さを表すために必要な量(長さ、広さ、人数、距離、時間等)は提示せず、混み具合や速さを比較するためには、どんな量が必要なのかを見つけられるようにする。
- ・子どもが見つけた二つの量の割合として表す際、どちらを分母(基準量)にし、どちらを分子にするかも子どもに任せ、それぞれの考えのよさを認め合う活動を行う。その後、長さや重さなどと同様、数値が大きいほど「混んでいる」「速い」とすることを世界共通の約束として共通理解を図る。
- ・同じ考えの子ども同士のグループを作り、その考えの根拠を明確にしたり、他の考えのグループが納得いくように筋道を立てて説明したりできるように、グループで考えを深められるようにする。
- ・全体共有の場では、..

⑨教師の評価言(問いへの価値づけ、見方・考え方への価値づけ、学び方への価値づけ、全体共有など)


- ・混み具合や速さは一つの量では表すこと(比較すること)ができないことを見つけたんだね。
- ・〇〇さんの説明は、考えの違う□□さんも納得したようだよ。
- ・式の意味を図や言葉を使って説明したので、よくわかったよ。

⑩指導と評価の計画

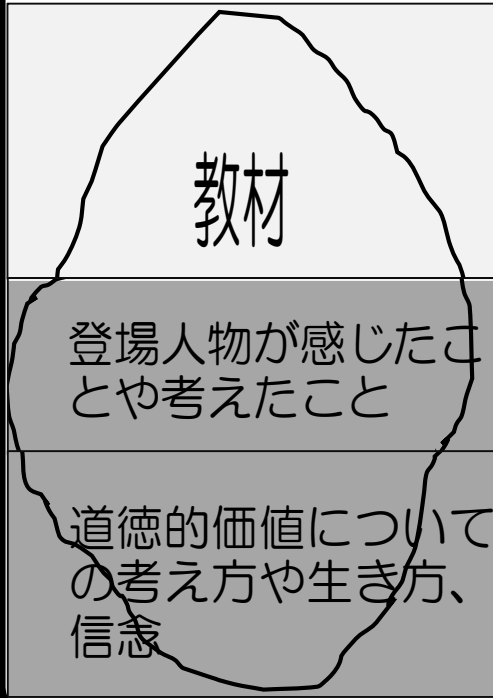
時間	ねらい・学習活動	評価規準(評価方法)		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	著作 国立教育政策研究所 「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料 (東洋館出版社発行) 事例を参照			

授業づくりのプロセス構想シート【道徳】（記入例）

教材名（出典） 雨のバス停留所で（わたしたちの道徳）	主題名 社会のきまりを守る
-------------------------------	------------------

本時の内容項目の見出し	C 規則の尊重
内容項目の分析・理解 （一緒に考えたいポイント）	<ul style="list-style-type: none"> ○約束や法、きまりを進んで守る ○法やきまり・・・個人や集団が安全にかつ安心して生活できる ○進んで守り、自他の権利を尊重するとともに義務を果たす
内容項目に係る児童生徒の実態	期待する児童生徒の考え
<ul style="list-style-type: none"> ○気の合う仲間や集団の中にきまりをつくる。 ○自分たちで決めたことを大切にしようとする。 ●身近な生活の中で、約束や社会のきまりと公共物や公共の場所との関わりについて考えることは少ない。 	 <ul style="list-style-type: none"> ○一人一人が相手や周りの人の立場に立ってよりよい人間関係を築くことが大切。 ○社会集団を維持発展する上で守らなければならない約束やきまりがある。



<p>★氷山の三層モデル （畿央大学 島恒生教授考案）</p> 	<p>①道徳的に変容した登場人物は、誰か。</p> <p>(A) よし子</p>	<p>② (A) が変容するきっかけになった出来事は、何か。</p> <p>(B) いつもとは全然ちがうお母さんのようす</p>
	<p>③ (A) が、変容を遂げて、どうなったか。（教材に書いてある様子）</p> <p>(C) 自分がしたことを考え始めた</p>	
	<p>読解レベル（教材から読み取れること）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな早く乗りたい、早く座りたいと思っている。 ・母が強い力で肩を引っ張ったのは、一列に並ばなかったから。 	
	<p>道徳的価値レベル</p> <p>みんな同じように願いや思いがある。 それらをきちんとかなえていくためにルールやきまりがある。</p>	

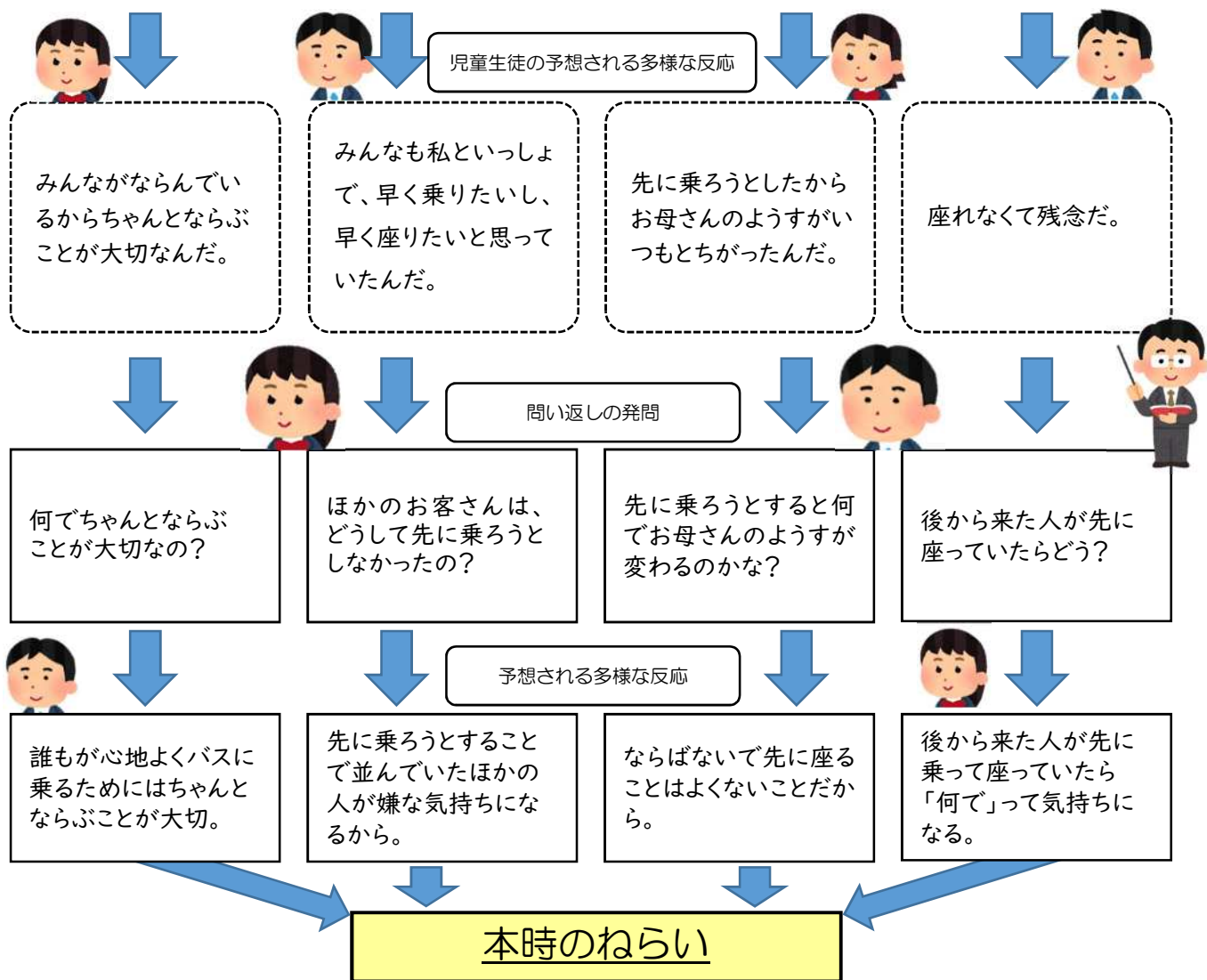
本時のねらいを明確にしましょう。

きまりを守ることは誰もが生活を送る上で大切なことに気づき、
社会のきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。

○授業構想

ねらいにせまるための中心発問：教材分析④

雨がふきつける窓を見ながら、よし子はどんなことを考えたのでしょうか？



※本時における一面的な見方から多面的・多角的な見方へとつながる問い返しの発問例

- | | |
|--------------------------|--|
| ①解決策の理由（動機）を問う発問 | 「どうしてそう思いましたか。」 |
| ②将来の結果（因果関係）を問う発問 | 「そうしたら、どうなると思いますか。」 |
| ③過去の経験を振り返り、将来の見通しを立てる発問 | 「自分も同じような経験はありませんか。」 |
| ④可逆性の原理を用いた発問 | 「自分がそうされてもよいですか。」 |
| ⑤普遍性の原理を用いた発問 | 「いつ、どこで、誰にでもそうしますか。」 |
| ⑥互恵性の原理を用いた発問 | 「それで皆が幸せになれるか。」 |
| ⑦その他 | 「～は、どんな気持ちでしょうか。」
「～のしたことをどう思いますか。」 |

※道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議（第2回）における岐阜大学大学院 柳沼良太准教授の配付資料より

（広島県立教育センター作成 「道徳リードシート」を改編）

授業づくりのプロセス構想シート【各教科等を合わせた指導】（記入例）

指導の形態	生活単元学習	学部 学年	小学部5年	指導者	〇〇 〇〇
-------	--------	----------	-------	-----	-------

①学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

②児童・生徒の実態

5年生5名。小学部各教科1段階～3段階の内容を学習。それぞれが自分なりの手段で経験したことや思ったことを伝えようとするが、相手の思いを聞くこと、相手に伝わるように分かりやすく話したり伝えたりすること等にはまだ意識が十分でない。創作活動では、それぞれに好きな素材や色があり、経験したことを絵などで表すことが好きな児童が多い。様々な道具を扱う経験もある。1学期のお楽しみ会の活動では、遊びコーナーを自分たちで担当しているいろいろな人に喜んでもらえたことが、達成感につながった。教師の支援を受けながら、繰り返しの活動の中で見通しをもち、友達や教師とかかわりながら、自分の役割を意識して、目的のために必要なことを考えたり、準備したりすることが少しずつできつつある。

③単元で身に付けたい力＜自立と社会参加の視点から＞

- ・お楽しみ会などの経験を活かし、見通しをもちながら活動する。
- ・みんながおまつりを楽しめるようにお店について考えたり工夫したりする。
- ・いろいろな友達や教師とかかわり思いや考えを伝えあいながら活動する。

単元名

くみわくわくまつりをしよう



④目標として取り扱う教科で育成したい資質・能力（指導要領から抜粋）

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
生活	カ役割 (イ) 集団の中での簡単な役割を果たすための知識や技能を身に付けること	カ役割 (ア) 様々な集団活動に進んで参加し、簡単な役割を果たそうとすること	自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養う。
国語	ア(ア) 身近な人との会話や読み聞かせを通して、言葉には物事の内容を表す働きがあることに気付くこと	A 聞くこと話すことウエオ ウ 見聞きしたことなどのあらましや、自分の気持ちなどについて思い付いたり、考えたりすること エ 挨拶や電話の受け答えなど、決まった言い方を使うこと。 オ 相手に伝わるよう、発音や声の大きさに気をつけること。 B 書くこと ウ 見聞きしたり、経験したりしたことについて、簡単な語句や短い文を書くこと	言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。
図画工作	A 表現(イ) 様々な材料や用具を使い、工夫して絵をかいたり、作品を作ったりすること [共通事項ア(ア)] 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと	A 表現(ア) 材料や、感じたこと、想像したこと、見たこと、思ったことから表したいことを思い付くこと [共通事項ア(イ)] 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと	進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

⑤主体的・対話的で深い学びのための手立て

- ・公民館まつりに参加することで、お客さんを招くおまつりへの具体的なイメージをもてるようにしたり、お客さんが楽しむためのお店の工夫に気づくことができるようにしたりする。
- ・毎時間動画による振り返りを行うことで、友達や自分のよい点や改善点への気づきにつなぐことができるようにする。
- ・新たな気づきにつなげることができるよう、おまつりに招く校内の教職員には、事前に児童の実態やねらいを情報共有しておく。
- ・教員は各グループにつくが、児童主体で活動を進めることができるよう、基本的には見守り必要に応じて実態に添った支援を行う。



⑥児童生徒の姿で考えると？

観点 教科名	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
生活	お店担当での自分の役割が分かって、活動している。	みんなが楽しめるおまつりになるように考えたり工夫したりしながら活動している。	周りの人に自分から関わりながら進んで取り組んでいる。
国語	お店担当で必要な言葉ややりとりに気付いている。	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さんに楽しんでもらえるような言葉がけややりとりを考えている。 ・「いらっしやいませ」「ありがとうございました」などの挨拶をしている。 ・相手に伝わるような声の大きさを話している。 ・おまつりに必要なことをチラシや店の表示に簡単な文で表している。 	積極的に友達や教師に言葉で伝え合おうとしている。
図画工作	いろいろな材料や用具を使って、工夫しながらお店の表示や看板などを作っている。	おまつりをイメージしながら、作りたいお店の表示を思い付いたり、思いに合った材料や色を選んだりしている。	つくる楽しさを感じながら、進んでおまつりに必要な物づくりに取り組んでいる。

⑦単元計画

時間	学習活動	ねらいにせまる(又は各教科等の見方・考え方を働かせる)児童生徒の姿	評価の計画		
			知	思	主
1次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○わくわくまつりの計画を立てる ・内容や招待する人、役割を決める。 	<p>1学期にしたことを思いだして考える</p> <p>「みんなが一番楽しそうだったのは〇〇のお店だったな。ルールを工夫したらもっと楽しめるかもしれない」</p> <p>「今度は、〇年生の友達をよんだら、もっと楽しんでもくれるかも」</p>		生活	
2次 (8時間)	<ul style="list-style-type: none"> ○お店の準備をする ・それぞれのお店で必要ものを考える ・お店担当としての言葉や台詞を教師と一緒にまとめる ○公民館まつりに行って、お客さんが楽しめる工夫を探す 	<p>児童同士で相談しながら考える教師とやりとりをしながら、一緒に準備をする</p> <p>↓</p> <p>公民館まつりでの気づき</p> <p>「大きな声で「いらっしやい!」と言ってる」</p> <p>「このお店は呼び込みの人と、ゲーム担当の人がいるんだな」</p>	生活 国語		
3次 (4時間)					
4次 (3時間)					
5次 (2時間)					

授業づくりのプロセス構想シート①【自立活動】（記入例）

学部・学年		指導者	
-------	--	-----	--

★学校教育目標、目指す児童生徒像、研究主題

1 実態把握

(1)

子どもの姿	
本人の得意なこと、頑張っていること、好きなこと ・プロ野球を見るのが好きで、とても詳しい。教員と野球の話をするのを楽しんでいる。 ・人とかかわることが好き。自分から積極的にかかわっていくことができる。特に、好きな教員には自分からよく話しかけている。 ・興味があること、何度も経験したことがあることには自分から取り組むことができる。 ・伝える内容を精選し、視覚的に示しながら簡潔に伝えることで、話を集中して聞き、理解することができる。	本人の苦手なこと、困っていること ・慣れない人や場所、初めての活動や見通しがもてない活動では不安を感じるようで、活動に参加しにくいことがある。 ・失敗したり友達とトラブルになったりすると落ち込むことが多い。その際は助言も責められていると感じるようで受け入れにくく、活動に参加できずしばらく泣いていることがある。 ・「どうせできない」「自分はダメだ」という発言が多いなど、自己肯定感が低い様子が見られる。 ・友達と関わりたい気持ちはあるが、うまく関われずトラブルになることも多い。 ・夜遅くまでゲームをして、学校で眠そうにしていることがある。
本人の願い ・みんなとなかよくできるようになりたい ・将来は野球関係の仕事がしたい。	



(2) (1)について、「自立活動の6区分27項目」に即して整理する。

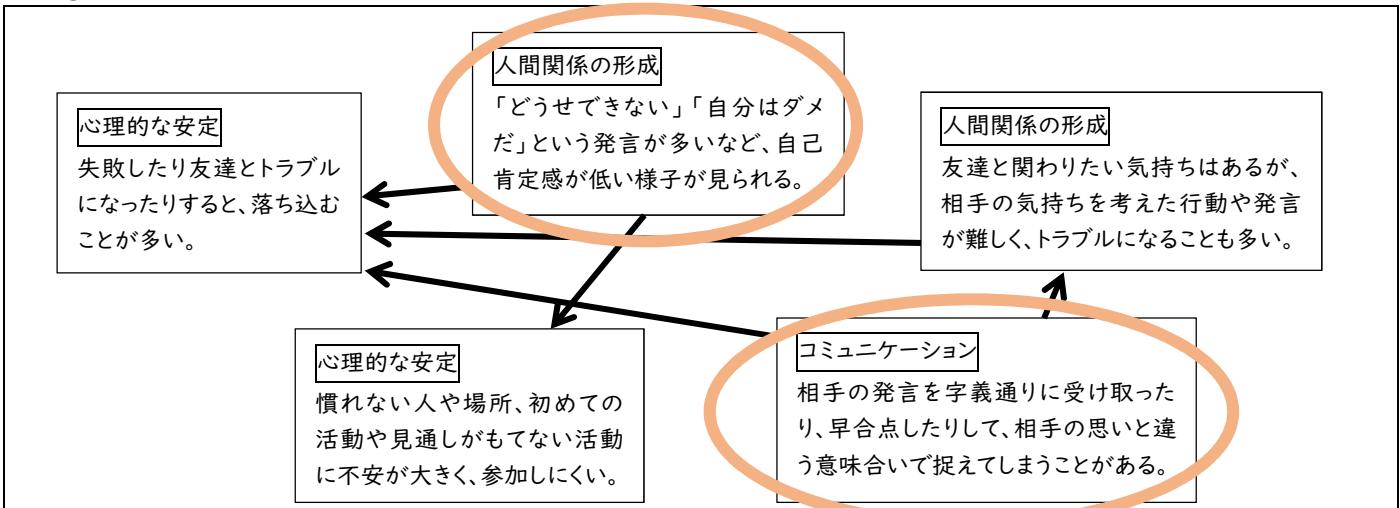
健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・夜遅くまでゲームをして、学校で眠そうにしていることがある。	・慣れない人や場所、初めての活動や見通しがもてない活動では不安を感じるようで、活動に参加しにくいことがある。 ・失敗したり友達とトラブルになったりすると落ち込むことが多い。	・成功体験が少なく、自己肯定感が低い様子が見られる。 ・人とかかわることが好きで、自分から積極的にかかわる。友達同士では、相手の気持ちを推測することに難しさがある。			・相手の発言を字義通りに受け取ったり、早合点したりして、相手の思いと違う意味合いで捉えてしまうことがある。

(3) 数年後に目指す姿

・周りの人と協力しながら、自信をもっていろいろな活動に取り組むことができるようになってほしい。

(4) ①(2)で整理した姿から「何年か指導してきたが習得が難しいもの」「数年後に目指す姿との関連が弱いもの」を外す。

② 課題同士の関連を整理し、中心的な課題を導き出す。



③ 中心的課題を導き出した理由(②で考えたこと)を記述する。



成功経験の少なさ等からくる、自己肯定感の低さが、活動への不安感等につながっている面が大きいのではないかと。また、相手の気持ちを推測することの難しさが、周りとのラトルや本人の自信のなさにつながっている面もあると考えられる。

このことから、まず本人の得意なこと等の取組の中で周囲から認められる経験を積み、自分の「できること」に気付くことができるようにし、自己肯定感を高めることが必要だと思われる。また、自分の気持ちに目を向け、知ること、そして自分と他者との感じ方やとらえ方の違いに気付くことができるようにすることが、周囲とのよりよい関係づくりや安定した学校生活、そして本人の願いを叶えることにもつながっていくのではないかと。

このような力を養うことで、各教科等では、<国語>思考力・判断力・表現力等「A 聞くこと・話すこと ア、オ」「B 書くこと イ、オ」<社会>知識及び技能「ア社会参加ときまり(ア)ア⑦」、学びに向かう力・人間性等を支える基盤となると考える。他教科でも、教師や友達とやりとりする学習活動の中で、自己の思いや考えに目を向けて表現する力、相手の考えに目を向けて自分の考えを深めていく力の育成の基盤となると考える。

2 実態把握をもとに、指導目標を設定する。

・自分の気持ちと周りの友達気持ちに意識を向けながら、活動に取り組むことができる。

3 指導目標を達成するために必要な指導項目を選定する。

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
選定された項目	<input type="checkbox"/> (1)生活リズムや生活習慣の形成に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)情緒の安定に関する事	<input type="checkbox"/> (1)他者とのかかわりの基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (1)保有する感覚の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
	<input type="checkbox"/> (2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)状況の理解と変化への対応に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)他者の意図や感情の理解に関する事	<input type="checkbox"/> (2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	<input type="checkbox"/> (2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (2)言語の受容と表出に関する事
	<input type="checkbox"/> (3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (3)障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (3)自己の理解と行動の調整に関する事	<input type="checkbox"/> (3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	<input type="checkbox"/> (3)日常生活に必要な基本動作に関する事	<input type="checkbox"/> (3)言語の形成と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (4)障がいの特性の理解と生活環境の調整に関する事	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> (4)集団への参加の基礎に関する事	<input type="checkbox"/> (4)感覚統合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<input type="checkbox"/> (4)身体の移動能力に関する事	<input type="checkbox"/> (4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
	<input type="checkbox"/> (5)健康状態の維持・改善に関する事	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> (5)認知や行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	<input type="checkbox"/> (5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	<input checked="" type="checkbox"/> (5)状況に応じたコミュニケーションに関する事

4 具体的な指導内容の設定

指導目標を達成するために、「選定された項目」を関連づけて、具体的な指導内容を1~3つにまとめる。

具体的な指導内容・指導場面	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことを中心とした活動に教師とともに取り組む中で、自分の「できること」に気づく。 周りの友達や教師の気持ちを意識しながら活動する。 <p>○自立活動(個別) 「プロ野球新聞をつくらう」</p>	<p>自分の捉え方と他者の捉え方には違いがあることを知る。</p> <p>○自立活動(集団) 「ミニゲーム」 「話し合い~こんなときどうする?」 「『気持ち』について学ぼう」</p> <p>○各教科等</p> <p>○ホームルーム活動</p>	<p>教師とともに、自分の気持ちを振り返り言語化したり、いらいらしたときの対処方法について一緒に考えたりする。</p> <p>○自立活動(個別) ○ホームルーム活動</p>
---------------	---	---	--

* 今回行う授業に下線を引く。

5 主体的に取り組むことができるようになるための手立て(今回行う授業について)

・生徒が興味をもっている「野球」を活動に取り入れる。

新聞の内容や構成については、生徒と話し合いながら、生徒自身のアイデアを活かすことができるようにする。

・ICT 機器にも興味をもっているため、活用しながら作成する。機器に詳しい T 先生にも相談できるような体制をつくり、生徒が自分から使い方を尋ねることができるようにする。

・新聞は教室前に掲示し、校内の教職員や生徒の感想をきけるようにする。「もっとこんな内容載せてほしい」等の意見に目を向けることもできるよう、必要に応じて教師が支援する。

授業づくりのプロセス構想シート②【自立活動】(記入例)

学校教育目標 目指す児童生徒像 研究主題				
児童生徒名	A	B	C	D
指導目標 (長期目標)	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けたりしながら活動に取り組む。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを自分から友達に伝えることが増える。 ○衣服の前を認識して、着替えをする。	○相手のペースに合わせて活動を行ったり、気持ちを考えようとして、相手に意識をむけることが増える。 ○身体力を入れる部位を意識して、正しい姿勢で座ることができ。	○友達とやりとりをしながら、自分の気持ちをコントロールして活動に取り組む。
指導内容	○関心のある事柄について、楽しみながら取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○関心のある事柄について、友達や教師とやりとりをしながら、話し合い決めていく経験を積む。	○安心のできる身近な人との間で、関心のある出来事等について話し合ったり、力を合わせたりして、人と関わる楽しさを感じ自信が高まるようにする。 ○衣服の背面を示すマークを認識して、着用する衣服をマークが見えるようにひろげる。	○友達を意識して協調的な動作ができるようにする。 ○日常の出来事や友達との会話をイラストを使って振り返り、相手の話を聞きながら話ができるように意識する。 ○姿勢が整いやすいように椅子を調整したり、姿勢保持のチェックポイントを確認できるようにする。	○関心のある事柄について、意欲的に取り組むことを通して、安定した情緒で活動する経験を積む。 ○自分を落ち着かせる方法について考え試して、自分にあった方法を見つける。
育成すべき 資質・能力との関連	○遊び、人との関わり、役割(生活・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等) ○簡単な指示や説明を聞いてそれに応じた行動をする、体験したことなどについて伝えたいことを考える(国語:聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等)	○基本的生活習慣、人とのかわり、役割(生活・知識及び技能、思考力・判断力・表現力等) ○体験したことなどについて伝えたいことを考える、挨拶や簡単な台詞を表現する(国語:聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等)	○登場人物の行動や場面の様子を想像する、登場人物になつたつもりで音読したり演じたりする(国語:読むこと 思考力・判断力・表現力等) ○各教科等における 学びに向かう力・人間性等	○相手に伝わるような話し方(国語:聞くこと・話すこと 思考力・判断力・表現力等) ○人との関わり、役割、さまり(生活 知識及び技能、思考力・判断力・表現力等)
学習や生活の中で見られる長所やよさ興味・関心	○様々な活動に自分なりのイメージや思いをもち意欲的に取り組んでいる。	○テレビのバラエティ番組に興味をもっている。 ○決められた役割に自分からコツコツと取り組む姿がある。	○図鑑を読むことやアニメのキャラクターに興味がある。 ○自分の好きなことや知っていること、考えたことについて周りの教師や友達に話したいという気持ちがある。	○ゲームなどの勝敗のある活動を好み意欲的に活動することが多い。 ○発想も豊かで、学習活動の中でも自分のアイデアを活発に発言し友達を引っ張っていく姿がよくみられる。
児童生徒名	A	B	C	D
単元の指導目標	○自分の思いを相手に伝えたり、相手の思いを受けとめたりしながらにここへゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の思ったことや考えたこと、気持ちを友達や教師に伝える。	○相手の思いや考えに意識をむけながら、にここへゲーム大会の活動に取り組む。	○自分の気持ちをコントロールしながら、友達との活動に取り組む。
単元名	「にここへゲーム大会を開こう」 ・交流 学級または校長先生、教頭先生を招待してゲーム大会をする。			
主な活動内容	・輪投げ			



★自立活動の具体的な指導内容を考える際の配慮事項です。指導内容を考える際に次の6点(幼稚園は7点)を意識しましょう。

- A 主体的に取り組む(改善・克服の意欲を喚起)発達の違いを更に伸ばす
- E 自ら環境と関わり合う(幼稚園のみ)自ら環境を整える力自己選択・自己決定を促す
- K 自立活動を学ぶことの意義について考えさせる

自立活動の配慮事項についての詳しい説明は、『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編(幼稚園・小学部・中学部)』の111～118ページに掲載されています。詳しくはそちらをご覧ください。

学習評価

学習指導要領改訂にともない「学習評価」の在り方も変わりました。教科等によって評価規準の作成方法も異なります。「学習評価」を行う上で、すべての教職員が「学習評価」について確認する必要があります。以下、「学習評価」についての参考資料を紹介しますので、ぜひご確認ください。

「学習評価の在り方ハンドブック」は学習評価全般について示しています。「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」は教科ごとにあります。国立教育政策研究所のホームページからダウンロードが可能となっています。

「学習評価の在り方ハンドブック」

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する資料」



小・中学校編



高等学校編



小学校



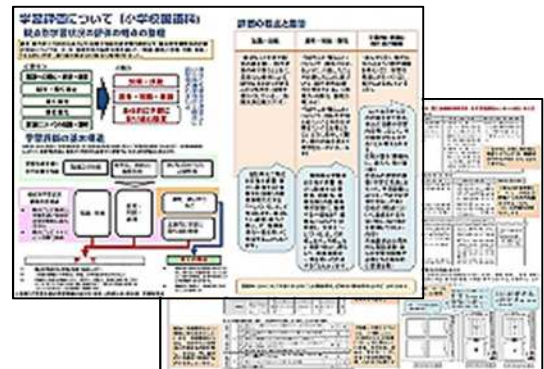
中学校



高等学校

国立教育政策研究所 ※ホームページからダウンロード可

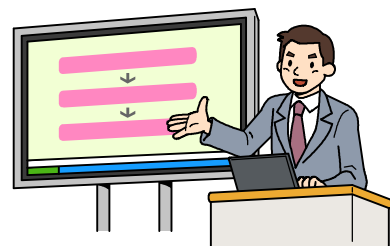
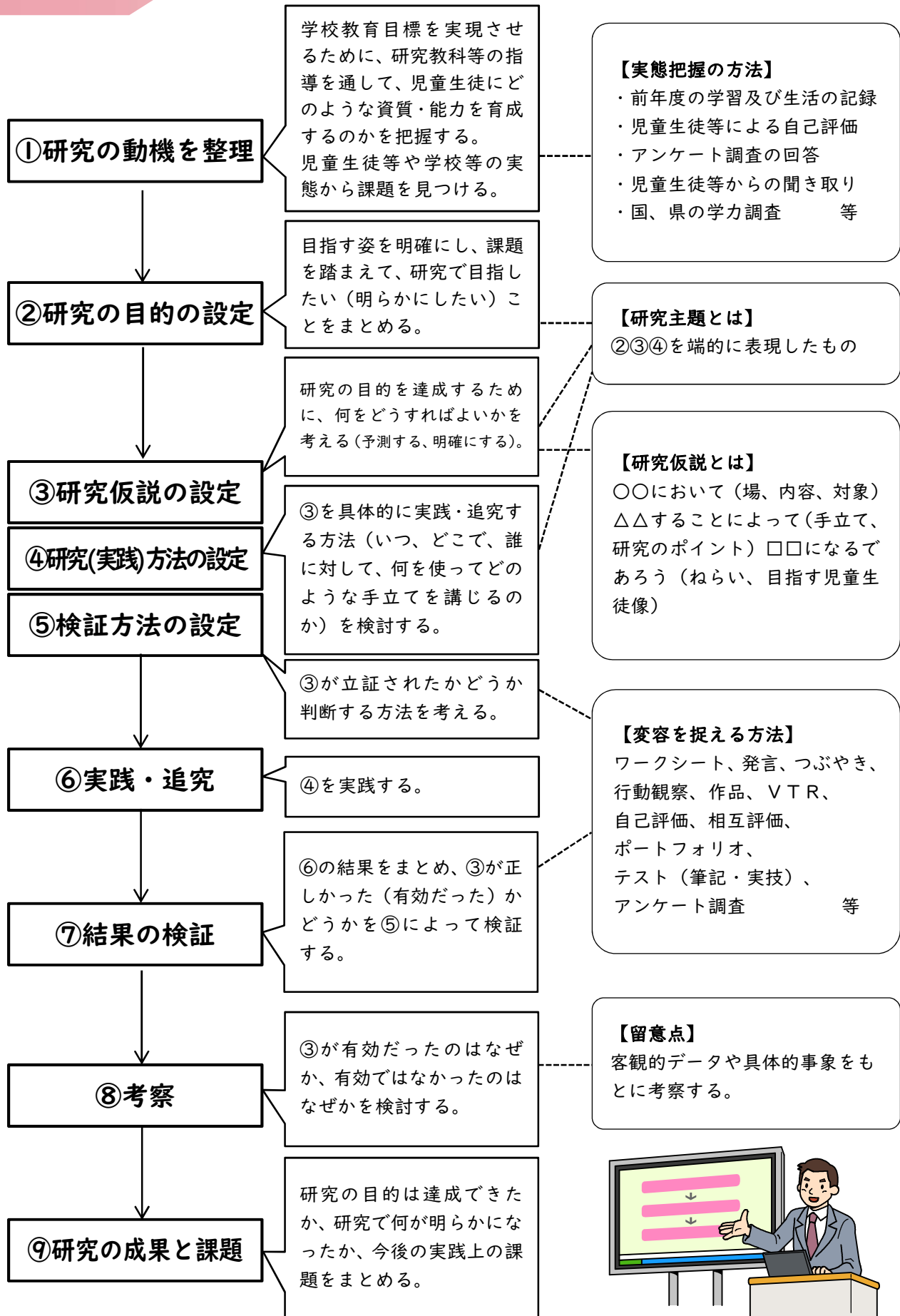
「学習評価ガイド」（島根県教育委員会）



(例) 学習評価について
小学校国語科

IOS しまねの教育情報 Web > 教育課程の編成 > 学校評価ガイド

課題研究の進め方



様式1 (教諭) 課題研究構想メモ (記入例)

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()

教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

造形的な見方・考え方とは、美術科の特質に応じた物事を捉える視点や考え方として、表現及び鑑賞の活動を通して、よさや美しさなどの価値や心情などを感じ取る力である感性や、想像力を働かせ、対象や事象を造形的な視点で捉え、自分としての意味や価値をつくり出すこと。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

教科等の「見方・考え方」「育成する資質・能力」を学習指導要領解説等から読み取り記入する。具体的な学習場面における教科等の「見方・考え方」も理解する。

研究主題

美術家の発想や構想で言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力等を育むワークシートや学習形態の工夫～自己や他者との対話的な学びによって、深く考え、満足できる発想や構想を生み出す力の育成をめざして～

研究の動機

【学校教育目標】

【学校で目指す子ども像】

【校内研究等】

・本校は研究の一環として、全ての教科でグループ学習を積極的に取り入れているため、自分の考えを伝え合う雰囲気がある。

【学校や児童生徒等の実態 (強み、弱み)】

- ・すぐにアイデアが思いつき、作品は完成させるが、振り返りの記述を見ると、作品完成時に達成感や満足感を感じている生徒が少ない。
- ・発想や構想の段階で深く考え、構想を何度も練り直しながらこだわりを持って作る姿があまり見られない。
- ・自分の作品を他者に見せることを拒む生徒が多く、作品へのこだわりや満足感がないことが理由として考えられる。

学校教育目標や学校で目指す子ども像を記載する。(学校全体で取り組もうとしていることでもよい) 研究に着手した動機や理由を記入する。児童生徒等や学校の実態や課題などを記入する。実態把握の方法は前頁を参照する。

研究の目的

- ・学習指導要領解説に「表現活動の喜びは、自分独自の満足できる発想や構想を生み出すことができたときに感じられる」とあり、この姿の実現をめざす。
- ・発想や構想の段階で言語活動を充実させることにより、深く考えて作品を作ることができるようにしたい。
- ・ワークシートや学習形態を工夫することが、言語活動の充実につながり、思考力・判断力・表現力等を育むうえで有効であるかどうかを明らかにする。

研究に着手した動機や理由を記入する。児童生徒等や学校の実態や課題などを記入する。実態把握の方法は前頁を参照する。

研究仮説

発想や構想で使用するワークシートや、対話的な学びとなる学習形態を工夫すれば、言語活動を通して深く考え、自分独自の満足できる発想や構想を生み出す力が育成されるであろう。

「研究の目的」を達成するために「〇〇を△△したら□□になるだろう」「〇〇は△△なのではないか」という実践後の予測を研究の指針、ビジョンとして記入する。

研究(実践)方法

- 1 事前アンケート調査 (前年度の制作後の満足感等)
- 2 先行研究調査 (ワークシートや学習形態)
- 3 ワークシートを工夫した授業の実施 (1学期)
先行研究を参考に作成したワークシートを利用し、主題を言語化したり、アイデアスケッチ等で構想を練る言語活動を取り入れた授業を行う。
- 4 学習形態を工夫した授業の実施 (2学期)
ワークシート (3により改善したもの) を使って、グループで対話することによりアドバイスをもらったり、自分の考えを深めたりして構想を練る授業を行う。
- 5 改善したワークシートと学習形態を取り入れた授業の実施 (2学期)
3と4の考察から改善したワークシートと学習形態による授業を行う。
- 6 事後アンケート調査 (制作後の満足感、ワークシートや学習形態に対する意識等)
- 7 考察 (ワークシートの記述や対話の記録と作品に見られる工夫など)
- 8 成果と課題 (今後の研究について等)

「研究仮説」を確かめるための方法や計画 (時期、場所、対象、使用資料、手順等) など具体的な研究活動 (実践・調査・考察等) を記入する。

検証方法

- ・ワークシートの記述 (文章やアイデアスケッチ等) により、発想・構想の段階での思考の深まりを見取る。
- ・ワークシートの記述と作品に見られる工夫の関係を分析する。
- ・グループで対話した後の工夫の変化を、ワークシートや作品から捉える。
- ・事前アンケートと事後アンケートを比較し、思考の深まりの自覚や作品完成後の満足感の変容を読み取る。

「研究仮説」が正しかったか (有効だったか) どうか検証 (判断) する方法を記入する。

様式1 (教諭) 課題研究構想メモ (チェック表)

身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる

学校名 () 個人番号・氏名 ()

教科等の見方・考え方と育成する資質・能力

- 教科等の見方・考え方が書いてある。
- 教科等で目指す資質・能力が書いてある。

研究主題

- 研究内容が分かる具体的なものになっている。

研究の動機

- 学校教育目標と教科等で目指す姿とのつながりを書いている。
- 児童生徒等の実態を具体的、客観的に書いている。
【例】 ・ノート、ワークシート等の記述内容 ・発言や活動の様子
・島根県学力調査 ・全国学力学習状況調査
・テスト、模試等の記述内容や結果 ・これまでの授業の評価
- 児童生徒のよさ(強み)も書いている。

研究の目的

- 実現したい児童生徒等の姿等が具体的に書いてある。
- 目指す姿が学習指導要領(解説)の目標や内容等に沿っている。
- 求められている教育課題や学校教育目標、児童生徒の課題にあっている。
- 年間を通して目指すゴールになっている。

研究仮説

- 実践する内容を明確にしている。
- 取り組むことを数点(1、2)に絞り込んでいる。
※焦点化した方が取り組みやすい
- 具体的に検証できるものを書いている。

研究(実践)方法

- 調査や実践、考察等の計画を具体的に書いている。
- 授業内容や指導・支援など手立ての具体を書いている。
- 年間を通して計画的に取り組むことができるものである。

検証方法

- 検証するための具体的な基準がある。
- 客観的に検証するための具体的な方法がある。
【例】 発言、行動観察、作品、VTR、自己評価、相互評価、ポートフォリオ
ワークシートやノート、アンケート、授業評価、振り返り等

課題研究 構想発表（校内発表）の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で課題研究の課題研究構想発表を行います。発表と協議を通して、児童生徒等が身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・課題研究構想メモをもとに、1年間取り組む課題研究について説明する。
- ・その他必要な資料を用いたり、プレゼンテーションソフトを活用したりして、参加者の理解と協力を得られるようにわかりやすく発表する。

② 協議・質疑応答

- ・よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する

メモ

授業づくり② (第Ⅲ回教育センター研修)

授業動画の視聴、協議を通して、これまでの授業づくり・課題研究を振り返ることで、成果や課題を見いだします。

9月以降の授業や研究授業の構想を立て、それについての仲間からのアドバイスをすることで、授業づくりに役立てます。

教科等別、中堅教諭等資質向上研修受講者と共に

- (1) 教科代表の授業動画を視聴する。
- (2) 「教科等の見方・考え方を働かせ、資質・能力を伸ばす～主体的・対話的で深い学びを通して～」をテーマに、研究協議を行う。

教職経験6年目研修受講者のみで

- (3) 授業づくりグループに分かれ、課題研究及び2回目の研究授業の構想を推敲する(授業づくりのプロセス構想シートの修正)。
- (4) 課題研究・研究授業について発表、協議をする。

今後の予定

- ・ オンデマンド動画視聴後、校内研修発表を行う。
- ・ 校内研修発表で使用した資料を、校内発表実施後1週間以内に教育センターに提出する。(最終メ切9月19日)
- ・ 第Ⅲ回教育センター研修の成果を9月以降の授業、2回目の授業研究、課題研究等に生かす。
- ・ 課題研究レポート(校内中間発表用)[参考様式1]を作成する。
- ・ 「課題研究 校内中間発表」を行う。
- ・ レポートの記載内容については、著作権や個人情報、肖像権等に十分配慮する。

課題研究 校内中間発表の進め方の例

チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等を含む複数の教員または全教職員の前で課題研究の中間発表を行います。児童生徒等が身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・目的、生徒の実態、実践、今後の具体的な取組について説明する。
- ・ワークシート、写真、成果物(ワークシート等)を用い、参加者にわかりやすく発表する。

② 協議・質疑応答

- ・よい点や改善の余地があると感じた点などについて

③ まとめ

- ・発表者が、今後の研究の取組についての展望(願い)を発表する。

メモ

課題研究 校内成果発表の進め方の例

チームメンバー、管理職等を含む複数の教員または全教職員の前で課題研究の成果発表を行います。発表と協議を通して、児童生徒等が身に付けた資質・能力を踏まえ、単元（題材）の目標に迫る授業について理解を深めていきます。

○進め方

- ・司会はチームメンバーが行う
- ・流れ

① 発表

- ・課題研究の成果・課題・今後への展望について説明する。
- ・ワークシート、写真、成果物（ワークシート等）を用い、参加者にわかりやすく発表する。

② 協議・質疑応答

- ・成果の共有、来年度以降継続・発展させたいことなどについて

③ まとめ

- ・発表者が、自らの資質能力の向上に向けて取り組みたいことを発表する。

授業づくり③ 課題研究 成果発表（第Ⅳ回教育センター研修）

各教科等のグループで、課題研究の成果発表を行います。1年間の研究を振り返り、成果と課題を明らかにして、次年度以降に生かしていきます。

(1) 発表内容

- ①研究の目的（自分が最も明らかにしたかったこと）
- ②中間発表でアドバイスを受け修正したり工夫したりした点や、その後の校内での実践
- ③成果と課題（児童生徒等の変容、教師の具体的な手立て、成果と今後の課題等）

(2) 進め方

- ・受講者が司会や計時を行います。
- ・流れ（グループの人数によって時間は変わります。詳しくは担当指導主事が伝えます。）

① 発表内容：上記(1)の整理（個人作業）

- ・授業改善プランニングシート[P79]に記入してもよい。

② 発表+協議・助言（グループごと）

- ・協議：成果と課題に対する背景・原因や具体的な改善策について
- ・記録：他の受講者からの意見や指導主事からのアドバイス

③ 次年度の計画（個人作業）

- ・今年度の取組を受け、次年度に焦点化して解決したい課題とその課題を解決するための具体策を記入する。

④ ③について情報交換

⑤ まとめ（指導主事より）

授業改善プランニングシート (第Ⅳ回教育センター研修)

～「身に付けた資質・能力を踏まえ、単元(題材)の目標に迫る授業ができる」を目指して～

(1) 発表内容(整理するためのメモとして活用してもよい)

【研究の目的】

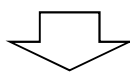
【中間発表後修正したり工夫したりした点、その後の校内での実践】

【成果と課題】

※成果の背景は?

※課題の原因は?

(2) 他の受講者からの意見や指導主事からのアドバイス



(3) 次年度に向けて

【次年度、焦点化して解決したい課題】

【その課題を解決するための具体策】

研修に役立つ資料

資料	リンク先	
教職経験6年目研修の手引	研修情報システム MyPage[各種ダウンロード]>教職経験年数に応じた研修の実施要項をダウンロードする	
教職経験6年目研修の様式 (Word ファイル)	研修情報システム MyPage[各種ダウンロード]>教職員研修の各種様式等をダウンロードする>教職経験6年目研修	
過去の課題研究レポート		
教職経験6年目研修について 課題研究の進め方	研修情報システム MyPage[研修動画]から視聴	
小学校学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387014.htm	
中学校学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1387016.htm	
高等学校学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1407074.htm	
特別支援学校学習指導要領解説	https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm	
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html	
しまねの教育情報 Web	http://eio-shimane.jp/	
Well-being な生き方を目指して～個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実～	https://www.shimane-ec.pref.shimane.lg.jp/chosa-kenkyu/seikabutsu/well-being.html	

誰もが、誰かの、
たからもの。

どんなに時代が変わっても、受け継いでいきたい
それは、人のつながり、あたたかさ

さりげないけど、ほっとかない
互いの顔が見える、人間味あふれる関わりが心地いい

今を見つめ、未来に想いをはせる
そんな心を、ときに優しくつつみ、ときにそっと背中を押す

大切に育んできた“つながる力”は、
自分サイズで、一生懸命生きる人を応援してくれる
未来への原動力

人が人のたからもの
誰もが誰かの応援団

いいけん、
島根県

教職経験6年目研修 年間予定表

OJT研修関係

Off-JT研修関係

提出関係

- 4月 教職経験6年目研修（教諭）についての事前調査に回答する [メ切4月11日（木）]
- 4月 6年目研修チームづくり
- 5月 第I回教育センター研修（オンライン研修）
- 5~1月 校内研究授業・研究協議（授業研究会）への参加（年1回以上）
- 5~6月 チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導助言のもと「課題研究構想メモ [様式1]」を作成する
- 5~6月 課題研究の校内構想発表を行う
- 6~7月 チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言のもと「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」の実施（1回目）
- 6~7月 「課題研究構想メモ [様式1]」を修正する
- 研究授業後 「課題研究構想メモ [様式1]」及び「学習指導案（密案）」を教育センターへ提出 [最終メ切7月18日（木）]
- 6~8月 オンデマンド研修（第II回教育センター研修）
- 6~8月 オンデマンド研修内容についての校内研修発表を行う [最終メ切9月19日（木）]
- 6~8月 第2回校内研究授業に向けて、教材研究を行う
- 8月 第III回教育センター研修（集合研修）
- 8~10月 チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導助言のもと「課題研究レポート（中間発表用） [参考様式1]」を作成する
- 8~11月 課題研究の校内中間発表を行う
 ・チームメンバー、管理職、ミドルリーダー等(全教職員も可)の参加（人数は任意）
 ・ミドルリーダー、管理職等による評価（指導・助言）
- 11月 教職経験6年目研修における実施状況についてのアンケートに回答する
- 8~1月 チームメンバー、管理職やミドルリーダー等の指導・助言のもと「学習指導案作成」「学習指導案審議」「研究授業」「研究協議」の実施（2回目）
- 12~1月 「課題研究レポート（成果発表用） [様式3]」を作成し、教育センターへ提出 [メ切1月23日（木）]
- 12~2月 課題研究の校内成果発表を行う
- 2月 第IV回教育センター研修（オンライン研修）
- 2月 「教職経験6年目研修 報告書 [様式4]」を作成し、「課題研究レポート（最終報告用） [様式3]」「学習指導案（密案1回分）」とともに教育センターに提出する [メ切2月27日（木）]